

これからの姫路市立高等学校の在り方について
(答申)

令和4年2月

姫路市立高等学校在り方審議会

目 次

1	市立高等学校を取り巻く状況と課題	1
2	これからの市立高等学校に求めること	4
3	今後の進め方	7
	《参考資料》	9
	資料1 審議に至る背景	
	資料2 生徒数の現状と見込み	
	資料3 姫路市立高等学校について	
	資料4 姫路市立高等学校の在り方に関するアンケート調査結果	
	資料5 第2期 姫路市教育振興基本計画（抜粋）	
	資料6 姫路市立高等学校在り方審議会条例	
	資料7 姫路市立高等学校在り方審議会委員名簿	
	資料8 審議経過	

1 市立高等学校を取り巻く状況と課題

(1) 市立高等学校の現状

本市では、姫路高等学校、琴丘高等学校、飾磨高等学校と3つの高等学校を有している。現在、これら3校では、普通科を中心に、生徒の興味関心や保護者・地域の要望等を踏まえ、専門学科として国際文化科を、特色ある普通科コースとして探究科学コース、健康福祉コースを設置している。また、時代に即した教育課程の編成、充実した授業の展開、進路希望を実現するための丁寧な支援、熱心な部活動の指導などを行いながら、社会に貢献できる人材を育成している。

学校規模は、3校いずれも1学年6学級以上あり、兵庫県が望ましい規模として示している「6～8学級」の基準を満たしている。また、入学者選抜における志願倍率は概ね高く、中学3年生を対象として県下一斉に実施しているオープン・ハイスクールでも、募集定員を大幅に上回る参加者があるなど、進学希望者の多い学校である。

これは、市立3校それぞれの歴史と伝統に培われた魅力ある学校づくりの成果である。しかし、社会の変化とともに新たな課題も生じていることから、課題を解決しながら、より一層充実した市立高等学校を構築していくために、その在り方を見直す必要がある。

(2) 新たな課題

ア 急速な少子化の進行

全国的に少子化が急速に進む中、姫路・福崎地域（姫路市、市川町、福崎町、神河町）においても、公立中学校卒業生徒数は全体として徐々に減少しており、令和3年3月の卒業生徒数は5,040人と、平成22年3月に比べ約930人減少（▲15.5%）している。

今後の公立中学校卒業生徒数の推計では、令和12年3月には4,496人と、令和3年3月に比べ約540人減少（▲10.8%）する見込みであり、その後も減少傾向は続いていく。

これまで、兵庫県及び姫路市では、生徒数が減少する中、公立高等学校の学級数を削減することで対応してきたが、現在の市立3校の学級数は、兵庫県が望ましいと考える規模を辛うじて維持するといった状態となっている。今後の推計生徒数を踏まえると、10年後にはさらに約10%の減少が見込まれており、これ以上学級数を減らすことは、専任教員の配置や特色ある教育活動の展開、部活動の実施等の観点から、望ましい学校運営が困難になる。

また、兵庫県においては、県立高等学校の再編を視野に入れた県立高等学校教育改革第三次実施計画の策定を進めており、県立高等学校の状況も含め、本市における高等学校の教育環境を第4学区全体で考える必要がある。

イ 求められる学びの変化

IoT や AI、ビッグデータの活用といった新たな技術の急速な進展とともに、Society5.0 時代として生活や産業構造など社会の在り方そのものが大きく変わり、子供たちの将来就く職業も、大きく変化することが予測されている。国際社会においては、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、世界が一体となった取組が進むなど、多様な視点や価値観を共有しながら、社会の課題に主体的に取り組むための学びが求められている。

また、令和4年4月からは民法が定める成年年齢が20歳から18歳に引き下げられるなど、高校生が社会の一員であることを自覚する機会が増えてきており、高等学校においては、目前の大学進学等を目指すだけのものではなく、生徒自身が20年、30年後のキャリアを意識して、必要な力を身に付けられるものでなければならない。

生徒一人一人が、必要な資質や能力を最大限に伸ばすことができるよう、生徒自身が多様な学びを選択することができる教育課程を編成するとともに、これまでの文系・理系といった枠にとらわれない教科等横断的な学びを進めることで、主体的に学び、創造力や論理的な思考力、課題解決能力など、社会で実践するために必要な能力を磨くことが重要である。

ウ 学校施設の老朽化

市立高等学校の校舎等は、建築後40年以上経過した施設が全体の約81%を占めるなど老朽化が進んでおり、令和3年9月に在校生や保護者、卒業生等を対象に行ったアンケート（以下「関係者アンケート」という。）においても、在校生を中心に施設設備の改善を求める回答が多く寄せられるなど、学校施設をはじめとする教育環境の改善は、喫緊の課題である。

しかしながら、令和3年1月に策定した姫路市学校施設長寿命化計画の試算によれば、校舎の改修や改築等の費用として、令和42年度までの40年間に約188億円と多額の費用が必要になる。毎年度の運営経費に加え、校舎等の改修や改築など整備に係る経費としてさらに多額の費用を支出し続けることは、将来世代に過度な負担を強いることになる。

エ 姫路市の財政状況

本格的な人口減少社会の到来とともに、市全体の予算規模の拡大が望みにくい状況の中、人の生命に関わる社会保障の維持や社会基盤（いわゆるインフラ）の老朽化対策など、優先せざるを得ない課題を解決するための経費が大幅に増加すると見込まれる。

教育費については、未来ある子供たちに充実した教育環境を提供するため、予

算規模を維持する努力を続けているが、現状以上の予算を確保することが困難な状況にある。

市立高等学校の運営に要する経費については、令和元年度決算ベースで、授業料など約 2.8 億円の収入があるものの、約 15 億円の費用が必要となっている。62 市ある中核市において全日制の市立高等学校を 3 校設置しているのは本市と鹿児島市のみであり、あとは 2 校設置が 4 市、1 校設置が 25 市である。今後の在り方を検討するに当たっては、財政面からの検討も避けては通れない。

2 これからの市立高等学校に求めること

高等学校は、社会に出て自立する前の段階にある生徒が、互いに切磋琢磨しながら、学力だけでなく、社会の中で生きていくために必要な社会性や人間性を育む場である。

社会の中で信頼される人間として、自らの個性や、先が見えにくい社会においても生き抜くことのできる力をしっかりと育てていくことができる教育が必要であり、学習活動や部活動において、地域の温かい目で見守られ、多様な人と会うことで刺激を受けながら、生徒一人一人が、自らの長所を伸ばし、活躍する機会をつかむことができる場であることが望ましい。

公立の高等学校は全国的に県立が多いが、本市において市立高等学校を運営することは、本市の未来を担う人材の育成の観点から意義がある。これまで、市立高等学校は、さまざまな取組を通じて、市内外から本市を支える人材を輩出してきた。今後も地域に貢献できる人材を育てていくためには、地域に愛着を持ち、在学中に地域住民や企業とつながり、まちづくりについて主体的に考える経験を積むことが肝要であり、このことは、市民力の向上と本市の発展に寄与するものである。

具体的な方向性については、姫路市が今後、実施計画として検討するものであるが、この答申により、市民をはじめ関係する方々が、これからの市立高等学校の望ましい姿をイメージできるよう、本審議会における提言内容を次のとおり記す。

(1) 特色ある取組

これまで、本市の市立高等学校においては、専門学科やコースの設置等により、地域社会と関わる中で、その魅力や課題に着目しながら学びを深める取組を進めてきたが、これからの学校教育において求められる、より主体的で意欲的な学びを実現するものとして、これらの取組をさらに発展させてもらいたい。

国においては、学際領域や地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科等の設置を可能とする普通科改革を進めているが、教科等横断的な取組や地域と連携した活動を行う場合には、特に市立高等学校であることは優位性を持つ。

義務教育とのつながりを大切にするとともに、大学や企業、地域との連携をしっかりと進めながら、グローバル社会で活躍できる人材を育て、本市の豊かな人づくり、まちづくりの推進役を担うことを期待したい。

特に、学科編成等の過程で、フラッグシップとなる専門学科や特色ある取組を検討していくことになるが、これらは学校の魅力を向上させる大切な要素であり、当該校の生徒全体にその成果を還元することで、多様な学びを実現するとともに、学校全体の学びの質を高める原動力となる。

1人1台端末をはじめ ICT を活用した教育がスタートする中で、STEAM、リベラ

ルーツ、インクルーシブ、国際バカロレアなどによる教育実践や、小中学校・大学等との連携、中高一貫教育、単位制など、多様な視点に立った教育内容・制度を積極的に研究、検討を行う必要がある。時代のニーズに対応しながら、本市が求める学びを実現することで、際立った特色を持ち、全国に誇れる高等学校としてもらいたい。

(2) 学校規模の維持・拡大

これまで、少子化への対応は学級数の削減で対応してきたが、それには活力の低下や教員配置数の減、部活動が行えなくなるなど弊害が大きい。

今後、さらなる少子化が進行する中、特色ある取組を積極的に進めていくためには、例えば、専門学科を含め、1学年10学級程度の規模の大きな学校を目指すなど、専門性の高い教職員を十分に確保するための方策が必要である。

また、これにより、生徒の興味関心や進路希望等に応じた科目選択など、教育課程の弾力的な編成を行いやすくなる。

さらに、部活動や生徒会活動など、学校を通じて経験する多様な取組は、生徒にとって大きな学びである。学業だけに留まらず、多様な活動を通じて、やりがいや達成感、自分の存在を感じることができる機会を得られるよう、これからの市立高等学校においては、さまざまな特長を有する文化スポーツ等の市立施設や人材、ネットワークなど、本市が有する機能を最大限活用しながら、生徒が学びたいことを学べる学校として、他の高等学校と切磋琢磨しながら、多様な魅力を国内外に発信できる学校づくりを進めるべきである。

(3) 学校施設環境の整備

市立3校の現在の施設は老朽化が進んでおり、抜本的な対策が必要となっている。

また、関係者アンケートにおいては、より魅力ある市立高等学校にするために必要なものとして、施設設備の刷新や快適な学習環境の整備を求める回答が多く、生徒が明るく快適な学校生活を送ることができるよう、より充実した施設環境を整えることが求められている。

現在、国においては、「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」について検討を進めており、生徒が日常的にICTを活用しながら、一人一人の可能性を引き出す個別最適な学びと多様な経験を得るためには、施設設備の充実は大きな要素であることから、令和の時代にふさわしい内容となるよう、改善を進めてもらいたい。

(4) 再編の必要性

以上が審議会において議論されたこれからの市立高等学校に求める姿であるが、これを実現するためには、現在の3校を維持したままでは困難であることが容易に想像できる。

市民から選ばれ、愛される市立高等学校であり続けるためには、未来を切り拓き新しい時代に対応できる市立高等学校を新たに構築していく積極的な方策が必要である。

そのためには、市立高等学校の再編は避けて通れない。1校に集約することや新設も視野に、学校施設の抜本的な整備を進めるとともに、これまでの市立高等学校で培われた実績を踏まえ、社会情勢の変化に対応する充実した教育内容を提供できるよう、教員や財源などの資源を集中させることが必要である。

3 今後の進め方

(1) スケジュール

今後、市立高等学校への進学を希望する子供たちが、具体的な進路目標を設定することができるよう、将来の市立高等学校の姿をできるだけ早く明らかにすることが望ましい。また、市立3校の校舎をはじめとした施設設備の老朽化が進み、大規模な整備を実施しなければならない時期も近づいていることから、早急に市立高等学校の具体的な計画を策定する必要がある。

なお、令和3年度末に、兵庫県が県立高等学校の再編を視野に入れた計画を策定予定であることを踏まえ、本市全体の高等学校の教育環境を考える視点から、時期を合わせて、検討を進める必要がある。

については、令和4年度中に具体方針を記した計画を策定し、その後、新たな教育課程や施設設備の整備、学校運営方法など具体的な検討や準備を進め、公立中学校の卒業生徒数の状況も勘案しながら、速やかに対応していただきたい。

(2) 留意事項

ア 生徒及び教職員への配慮

市立高等学校の再編に当たっては、本市を含む第4学区の募集定員数を生徒数の減少に合わせて緩やかに調整できるよう、生徒の通学利便性や教育ニーズも勘案し、兵庫県と十分に連携を図りながら計画的に行うことが必要である。

また、再編を行う際には、中学生の進路選択への影響に十分配慮のうえ、学校現場に随時きめ細かな情報提供を行うとともに、在校生が安心して学校生活を送ることができるよう、卒業までの学習環境を維持することが求められる。

なお、市立高等学校数の減少による課題の一つとして、教職員の状況についても留意する必要がある。人事異動に伴う教職員の資質向上の機会や組織の活性化を担保する必要があることから、県立高等学校との活発な人事交流や研修機会の確保を求めていくことなど、兵庫県との調整を進めていただきたい。

イ 校風の継承

市立3校にはそれぞれ異なる特色があり、卒業生や在校生、教職員によって実践されてきた取組が校風として根付いている。その学校らしさを表現する校風を大切にすることは、再編後の市立高等学校の姿を考えていく上で重要である。

その一例として、関係者アンケートの中で、今の高校に入学して満足している理由や母校の良さを尋ねたところ、高校生や高校生保護者、卒業生ともに、「学校や生徒の雰囲気が良い」という回答が最も多く、教員と生徒の近い関係性から生まれる親しみやすい校風は、生徒の安心感を生み、本人の積極性や自己肯定感を支えるものとして、ぜひとも引き継いでもらいたいレガシーである。

市立高等学校は、戦中・戦後の時代を経て、これまで長い間にわたり多数の卒業生を輩出し、地域の発展に寄与してきた。学校の再編に当たっては、これまでの市立高等学校の歴史や伝統を発展的に継承していくことが求められる。

ウ 立地条件

関係者アンケートにおいて、交通利便性を重要視する回答が多く見られるように、学校の立地については、生徒本人はもちろん、保護者にとっても大きな関心事である。

公共交通機関へのアクセスのしやすさや生徒が安全に通学できることを前提として、学校間や公共施設との連携のしやすさといった周辺環境についても、市立高等学校である利点を生かすうえで重要な要素となるため、考慮してもらいたい。

《 参 考 资 料 》

審議に至る背景

1 社会情勢

現在、国は、IoT や AI 等の先端技術をあらゆる産業や社会に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会である Society5.0 の到来に向けて、取組を進めている。

日本における総人口の減少や少子高齢化は進行し続けており、深刻さを増す少子化に対し、子育てに希望を持つことができる環境づくりなどが求められるとともに、世界有数の長寿国である現状から、人生 100 年時代に向けた社会づくりも必要とされている。

国際的な動向としては、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、国際社会全体が持続可能な開発目標（SDGs）達成に向け、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしており、日本においても実施指針を策定し、目標の達成に向けた取組を推進している。

また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的規模で大流行しており、日本においても感染が広がり医療提供体制がひっ迫するなど、人々の日常や経済社会活動に多大な影響を与えている。

2 国・兵庫県の動向

(1) 国

ア 学校教育法施行規則及び高等学校設置基準の一部改正

令和 3 年 3 月、文部科学省は『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（令和 3 年 1 月 中央教育審議会）及び「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）」（令和 2 年 11 月 同ワーキンググループ）等を踏まえて、学校教育法施行規則及び高等学校設置基準の一部改正を行った。

この改正には、各設置者が各学校に期待される社会的役割（スクール・ミッション）を再定義することや、各高等学校が育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受け入れに関する方針といった三つの方針（スクール・ポリシー）を設定し公表すること、普通教育を主とする学科の弾力化・大綱化（普通科改革）などが盛り込まれている。

普通科改革については、高校生の約 7 割が在籍する普通科において、その名称が一斉的・画一的な学びの印象を受けやすく、各学校がそれぞれの特色化・魅力化に取り組むことを推進する必要があることから、各設置者の判断により当該学科の教育内容を表現する名称を学科名とすることを可能とするための制度措置がとられた。具体的には、普通教育を主とする学科として、学際領域に関する学科や地域社会に関する学科など、普通科以外の学科の設置が可能となっている。

イ 学習指導要領の改訂

平成 30 年 3 月、高等学校の学習指導要領（以下「新学習指導要領」という。）が改訂され、令和 4 年度から年次進行で実施される。

新学習指導要領では、各学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実を図ることなどにより、生きる力を育むことを目指すことが示されている。

特に、生徒が知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して特質に応じた考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする過程を重視した学習の充実が必要とされており、そのためには各学校において教科等横断的な教育課程を編成することが求められている。

また、社会との連携及び協働による「社会に開かれた教育課程」を重視するとともに、選挙権年齢や成年年齢が 18 歳に引き下げられたことを踏まえて、必修科目として「公共」を新設するなど、主権者教育に関する内容の充実が図られた。この他、近年の情報技術の急激な進展などの状況を踏まえて、プログラミングや情報セキュリティ、データ活用等を学ぶ「情報Ⅰ」が必修化された。

(2) 兵庫県

令和 3 年 3 月、兵庫県の「ひょうご未来の高校教育あり方検討委員会」は、県立高等学校教育改革第二次実施計画の評価、及び今後の県立高等学校教育改革の方向性に係る報告書を取りまとめた。

報告書では、県立高等学校教育の在り方として、「未来への道を切り拓く力を育成するための方策」や「教育システムの充実・改革」、「県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置のあり方」などが示されている。

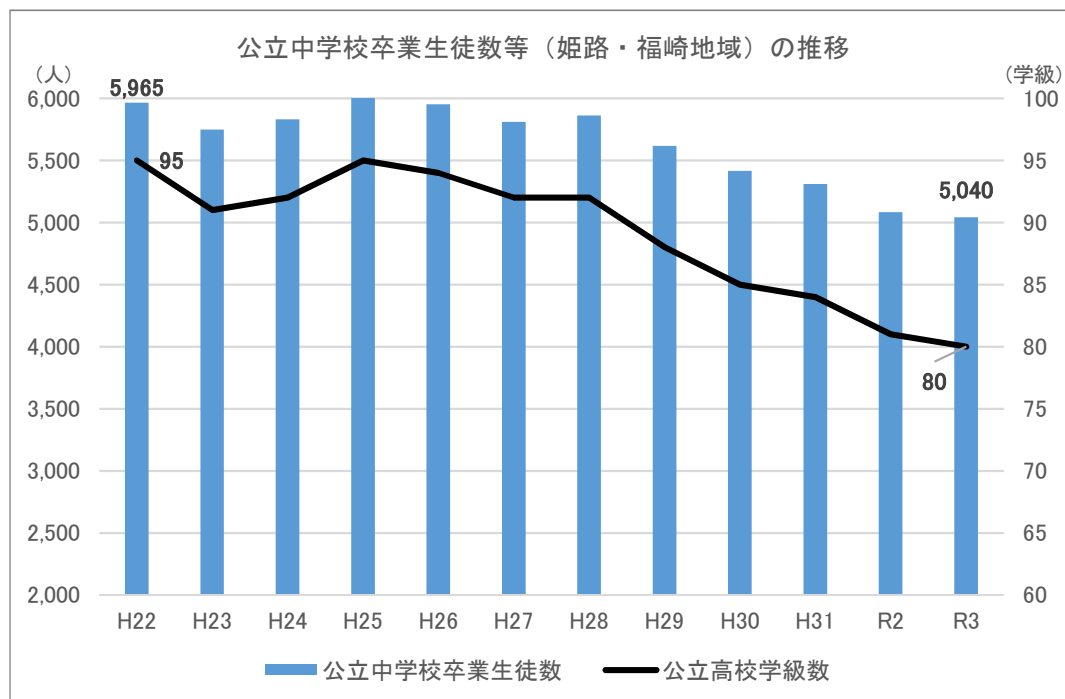
「未来への道を切り拓く力を育成するための方策」については、すべての教育活動において ICT の活用を推進するとともに、学校の規模を問わず個に応じた選択科目等が設置できる手法を全県規模で研究することや、Society5.0 時代において問題解決力や想像力を備えた人材を育成するために、兵庫型「STEAM 教育」におけるカリキュラム検討を踏まえた新たな学びを展開することなどが挙げられている。

「教育システムの充実・改革」としては、普通科の特色化を進めるうえで生徒の興味や必要性に応じた学びの展開が特に必要である場合には、学年制から単位制への改編を含めて検討することや、普通科や特色ある専門学科の見直しに当たっては、文理融合による新技術を活用した探究活動を軸とした学科や地域の教育資源を活用して地域課題の解決に取り組む学びを軸とした学科等の新設を検討することなどが示されている。また、専門性の高さや生徒の学習ニーズ等を踏まえ、コースを特色類型または専門学科へ改編することについても検討するとしている。

「県立高等学校の活力を維持するための望ましい規模と配置のあり方」については、普通科は1学年6～8学級を望ましい規模として考えていき、都市部においては生徒の学びの多様性を保障するため、発展的統合を含め、望ましい学級規模を維持する方策を検討する必要があるとしている。

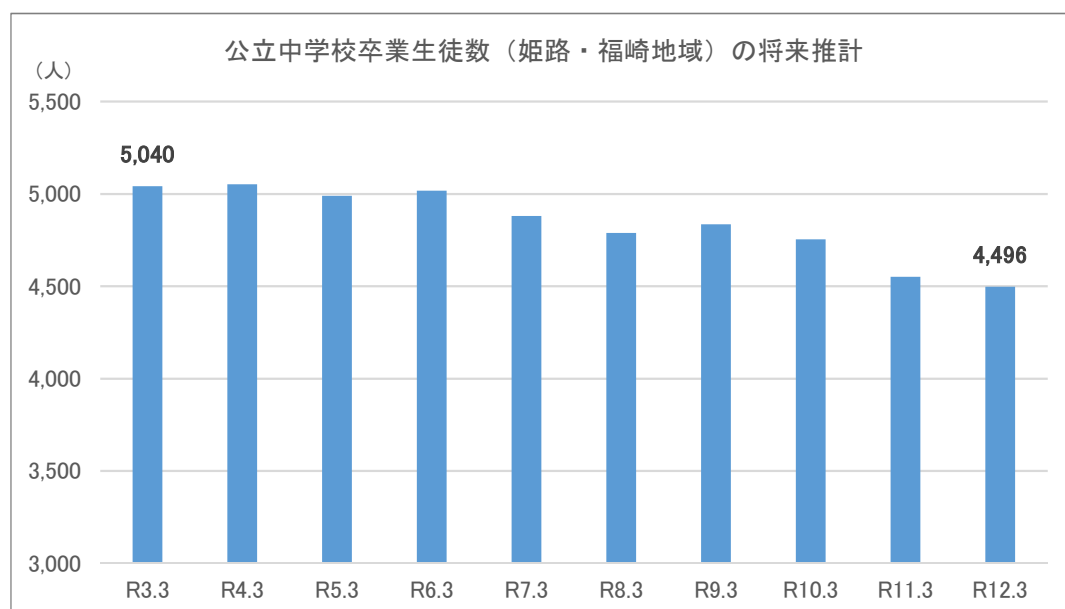
生徒数の現状と見込み

1 生徒数と学級数の推移



〔文部科学省「学校基本調査」、兵庫県「公立高等学校生徒募集定員一覧表」より作成〕

2 生徒数の将来的な見込み



〔文部科学省「学校基本調査」をもとに推計〕

姫路市立高等学校について

1 姫路高等学校

(1) 所在地

姫路市辻井九丁目 1 番 10 号

(2) 沿革

昭和 14 年 (1939 年) 姫路市立鷺城中学校設立

昭和 25 年 (1950 年) 姫路市立姫路高等学校と校名変更

平成元年 (1989 年) 姫路高等学校音楽ホール (通称パルナソスホール) 完工

平成 15 年 (2003 年) サイエンスキャリアコース開設

平成 27 年 (2015 年) サイエンスキャリアコースから探究科学コースに改編

(3) 設置学科

普通科、普通科探究科学コース

(4) 募集定員

普通科 200 人 (5 学級)、普通科探究科学コース 40 人 (1 学級)

探究科学コースでは、ハイレベルな学力の獲得にとどまらず、文・理系選択型のカリキュラムを組むことにより、適性を生かせる進路実現を目指している。

(5) 志願倍率

	普通科	普通科探究科学コース
令和 2 年度	1.06 倍	1.88 倍
令和 3 年度	1.06 倍	1.23 倍

(6) 在籍生徒数 (令和 3 年 5 月現在)

712 人 (第 1 学年 240 人、第 2 学年 236 人、第 3 学年 236 人)

出身中学の地域別 : 姫路・福崎地域 682 人、西播地域 24 人、その他 6 人

(7) 学校の規模

校地面積 46,018 m²、校舎延面積 12,985 m²

校舎 北館 (普通教室等・築 49 年 [昭和 47 年])、南館 (特別教室等・築 49 年 [昭和 47 年]) 等

(8) 大学合格等実績 (令和 2 年度実績、数字は延べ人数)

国公立大学 107 人、私立大学 798 人、短期大学 15 人、その他学校 1 人、専門学校 17 人

(9) 部活動 (令和 3 年度)

全 33 部 (運動部 16 部、文化部 17 部)

全校生徒における加入率は 93.4% となっており、過去 10 年間において陸上競技部、放送部、写真部が全国大会等へ出場している。

2 琴丘高等学校

(1) 所在地

姫路市今宿 668 番地（J R 姫新線播磨高岡駅から徒歩 10 分）

(2) 沿革

大正 2 年（1913 年） 姫路市立実科女学校設立

昭和 23 年（1948 年） 姫路市立琴丘高等学校と校名変更

平成 15 年（2003 年） 国際文化科開設

(3) 設置学科

普通科、国際文化科

(4) 募集定員

普通科 200 人（5 学級）、国際文化科 40 人（1 学級）

なお、第 4 学区全体の生徒数が減少することから、県との協議の結果、令和 3 年度より普通科を 1 学級減らしている。

国際文化科では、2 名の外国人講師をはじめとする英語科教員により少人数教育を行うとともに、外国人講師による第 2 外国語（スペイン語、韓国語）を選択することも可能としている。

(5) 志願倍率

	普通科	国際文化科
令和 2 年度	1.44 倍	1.45 倍
令和 3 年度	1.27 倍	1.38 倍

(6) 在籍生徒数（令和 3 年 5 月現在）

793 人（第 1 学年 240 人、第 2 学年 277 人、第 3 学年 276 人）

出身中学の地域別： 姫路・福崎地域 723 人、西播地域 63 人、その他 7 人

(7) 学校の規模

校地面積 66,501 m²、校舎延面積 10,759 m²

校舎 A 棟（普通教室等・築 53 年〔昭和 43 年〕）、B 棟（管理室等・築 52 年〔昭和 44 年〕）、C 棟（特別教室等・築 53 年〔昭和 43 年〕）等

(8) 大学合格等実績（令和 2 年度実績、数字は延べ人数）

国公立大学 13 人、私立大学 359 人、短期大学 23 人、その他学校 3 人、専門学校 66 人

(9) 部活動（令和 3 年度）

全 31 部（運動部 15 部、文化部 16 部）

全校生徒における加入率は 86.5% となっており、過去 10 年間において女子ソフトテニス部、男子ソフトテニス部、吹奏楽部、書道部、フォークソング部、ダンス部が全国大会等へ出場している。

3 飾磨高等学校

(1) 所在地

姫路市飾磨区妻鹿 672 番地（山陽電鉄妻鹿駅から徒歩 8 分）

(2) 沿革

昭和 17 年（1942 年） 兵庫県飾磨高等女学校設立

昭和 23 年（1948 年） 姫路市立飾磨高等学校と校名変更

平成 15 年（2003 年） 健康福祉コース開設

(3) 設置学科

普通科、普通科健康福祉コース

(4) 募集定員

普通科 200 人（5 学級）、普通科健康福祉コース 40 人（1 学級）

健康福祉コースでは、介護、福祉を中心に幅広く学び、介護職員初任者研修や移動支援従事者・同行従事者（ガイドヘルパー）の認定を目指している。

(5) 志願倍率

	普通科	普通科健康福祉コース
令和 2 年度	1.14 倍	1.63 倍
令和 3 年度	0.98 倍	0.80 倍

(6) 在籍生徒数（令和 3 年 5 月現在）

703 人（第 1 学年 233 人、第 2 学年 235 人、第 3 学年 235 人）

出身中学の地域別： 姫路・福崎地域 674 人、西播地域 22 人、その他 7 人

(7) 学校の規模

校地面積 39,309 m²、校舎延面積 9,948 m²

校舎 本館（普通教室等・築 47 年〔昭和 49 年〕）、北館（特別教室・築 46 年〔昭和 50 年〕）、東館（特別教室・築 56 年〔昭和 40 年〕）等

(8) 大学合格等実績（令和 2 年度実績、数字は延べ人数）

国公立大学 4 人、私立大学 161 人、短期大学 12 人、専門学校 90 人

(9) 部活動（令和 3 年度）

全 32 部（運動部 15 部、文化部等 17 部）

全校生徒における加入率は 92.7%となっており、過去 10 年間において、体操部、弓道部、吹奏楽部が全国大会等へ出場している。

姫路市立高等学校の在り方に関するアンケート調査結果

1 目的

姫路市立高等学校へのニーズや満足度に係るアンケート調査を実施し、現状を把握することにより、「姫路市立高等学校在り方審議会」において今後の在り方を検討する際の参考資料とする。

2 実施期間

令和3年9月6日（月）～9月22日（水）

（中学生保護者、高校生及び高校生保護者については、9月27日（月）まで回答期限を延長）

3 調査対象

- (1) 市立中学校3年生、義務教育学校9年生（各校で1学級を任意に抽出）及びその保護者
- (2) 市立高等学校1～3年生及びその保護者
- (3) 市立高等学校卒業生（同窓会理事）

4 調査方法

- (1) 中学生
ホームルーム等の時間を活用し、入力フォーム（兵庫県電子申請共同運営システム）から回答。
- (2) 中学生保護者、高校生、高校生保護者
各学校を通して依頼文を配付し、入力フォーム（兵庫県電子申請共同運営システム）から回答。
- (3) 卒業生
各校同窓会事務局を通して紙調査票を郵送し、市教育委員会事務局へ返送。

→ (1)～(3)で得た結果を市教育委員会事務局で集計。

5 回収数

	中学生	中学生 保護者	高校生	高校生 保護者	卒業生
対象者数	1,061人	1,061人	2,208人	2,208人	62人
回答者数	1,061人	723人	1,059人	1,206人	54人
回答率	100.0%	68.1%	48.0%	54.6%	87.1%

6 調査結果の概要

共通項目

1 高校を選ぶ時にどのような点を重視したか <複数回答可>

	高校生〔問5〕		高校生保護者〔問5〕		中学生〔問2〕		中学生保護者〔問2〕	
1	自分の学力に合っている	74.9%	お子さんの学力に合っている	72.4%	自分の学力に合っている	55.3%	お子さんの学力に合っている	64.0%
2	通学に便利である	36.4%	通学に便利である	43.5%	通学に便利である	37.5%	通学に便利である	52.9%
3	学校行事・生徒会活動が盛んである	24.7%	お子さんのやりたい部活動がある	23.5%	興味のある学科・コースがある	35.4%	お子さんの興味のある学科・コースがある	49.0%

2 高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視したか

	高校生〔問4〕		高校生保護者〔問4〕		中学生〔問3〕		中学生保護者〔問3〕	
1	県立・市立は問わないが、公立であることを重視した	75.8%	県立・市立は問わないが、公立であることを重視した	80.8%	県立・市立は問わないが、公立であることを重視する	56.2%	県立・市立は問わないが、公立であることを重視する	72.9%
2	特に県立・市立・私立の別は重視しなかった	20.0%	特に県立・市立・私立の別は重視しなかった	16.0%	特に県立・市立・私立の別は重視しない	26.6%	特に県立・市立・私立の別は重視しない	20.2%
3	市立であることを重視した	3.5%	市立であることを重視した	2.1%	県立であることを重視する	8.7%	県立であることを重視する	4.3%
4	県立であることを重視した	0.6%	県立であることを重視した	1.1%	市立であることを重視する	6.8%	市立であることを重視する	2.0%

3 高校生活でどのようなことを身に付けたいか（身に付けてもらいたい） <複数回答可>

	高校生〔問6〕		高校生保護者〔問6〕		中学生〔問5〕		中学生保護者〔問5〕		卒業生〔問1〕	
1	大学など進学に対応した学力や技能	54.1%	思いやりの心やコミュニケーション力などを含めた人間関係形成能力	58.0%	基礎的・基本的な学力	56.2%	思いやりの心やコミュニケーション力などを含めた人間関係形成能力	51.4%	思いやりの心やコミュニケーション力などを含めた人間関係形成能力	62.7%
2	基礎的・基本的な学力	47.8%	大学など進学に対応した学力や技能	57.6%	自立して生活できる知識や能力	41.4%	大学など進学に対応した学力や技能	39.7%	基礎的・基本的な学力	39.2%
3	思いやりの心やコミュニケーション力などを含めた人間関係形成能力	41.9%	基礎的・基本的な学力	36.3%	大学など進学に対応した学力や技能	39.8%	基礎的・基本的な学力	38.4%	社会に貢献するための資質や能力	33.3%
							自立して生活できる知識や能力	38.4%		

4 より魅力ある高校にするために、市立高校にはどのような学科・コースがあるとよいか <複数回答可>

高校に進学する場合、どのような学科・コースを選択したいか（選択させたい） < 〃 >

	高校生〔問7〕		高校生保護者〔問7〕		中学生〔問6〕		中学生保護者〔問6〕		卒業生〔問2〕	
1	普通科	54.4%	普通科	46.5%	普通科	78.8%	普通科	81.3%	国際関係や外国語に関する学科・コース	56.6%
2	国際関係や外国語に関する学科・コース	35.1%	国際関係や外国語に関する学科・コース	43.3%	数学や理科などの理数教育に関する学科・コース	12.6%	国際関係や外国語に関する学科・コース	19.7%	普通科	47.2%
3	看護・福祉に関する学科・コース	21.2%	コンピュータや情報に関する学科・コース	34.8%	工業に関する学科・コース	11.3%	数学や理科などの理数教育に関する学科・コース	19.1%	コンピュータや情報に関する学科・コース	35.8%

5 より魅力ある市立高校にするためには何が必要か <複数回答可>

	高校生〔問8〕		高校生保護者〔問8〕		中学生保護者〔問7〕		卒業生〔問5〕	
1	施設・設備を新しくして、快適な学習環境を整備すること	46.8%	大学進学を目指した学習を充実させること	45.7%	基礎的・基本的な学習を充実させること	39.0%	地域との連携を通じて郷土を愛し、姫路市の発展に貢献できる人材を育成すること	51.0%
2	大学進学を目指した学習を充実させること	41.1%	施設・設備を新しくして、快適な学習環境を整備すること	36.0%	大学進学を目指した学習を充実させること	37.7%	大学や研究機関との連携による探究的な学びを推進すること	39.2%
3	基礎的・基本的な学習を充実させること	38.5%	基礎的・基本的な学習を充実させること	32.6%	施設・設備を新しくして、快適な学習環境を整備すること	37.2%	基礎的・基本的な学習を充実させること	35.3%
			大学や研究機関との連携による探究的な学びを推進すること	32.6%				

高校生・高校生保護者

1 今の高校に入学して満足している理由〔問2〕 <複数回答可>

	高校生 (満足している:42.9% + どちらかといえば満足している:41.2%)		高校生保護者 (満足している:47.5% + どちらかといえば満足している:41.0%)	
1	学校や生徒の雰囲気が良いから	58.2%	学校や生徒の雰囲気が良いから	59.5%
2	基礎的・基本的な学力を身に付けることができるから	37.0%	基礎的・基本的な学力を身に付けることができるから	36.9%
3	自分のやりたい部活動があるから	29.0%	大学・専門学校など進学のための学力を身に付けることができるから	29.7%

2 今の高校に入学して満足していない理由〔問3〕 <複数回答可>

	高校生 (満足していない:2.8%+どちらかといえば満足していない:7.7%)	高校生保護者 (満足していない:1.5%+どちらかといえば満足していない:6.7%)
1	学校行事や生徒会活動が充実していないから 29.5%	大学・専門学校など進学のための学力を身に付けることができないから 32.3%
2	授業が分かりにくいから 27.7%	その他 24.2%
3	学校や生徒の雰囲気が良くないから 26.8%	授業が分かりにくいから 19.2%

卒業生

1 自校の良さは何か〔問3〕 <複数回答可>

1	学校や生徒の雰囲気が良い 57.4%
2	特色ある学科・コースがある 31.9%
3	部活動や学校行事、生徒会活動が盛んである 27.7%

2 自校における課題はあるか〔問4〕 <複数回答可>

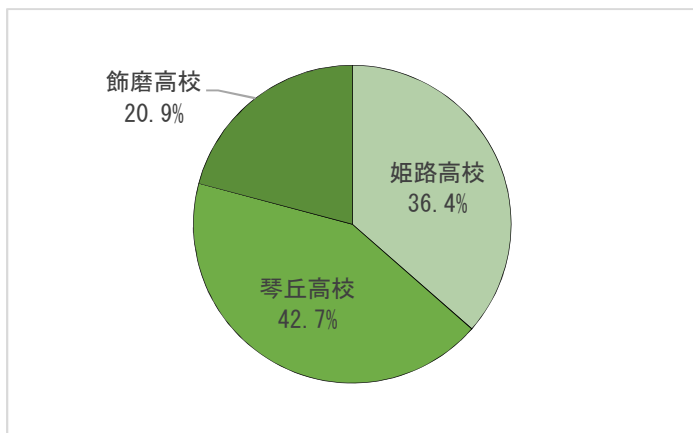
1	少子化による学級数の減少 36.5%
1	校舎・施設設備の老朽化 36.5%
1	ICTを活用した学習を行うためのネットワーク環境の整備 36.5%

アンケート調査結果（高校生）

1 基本属性

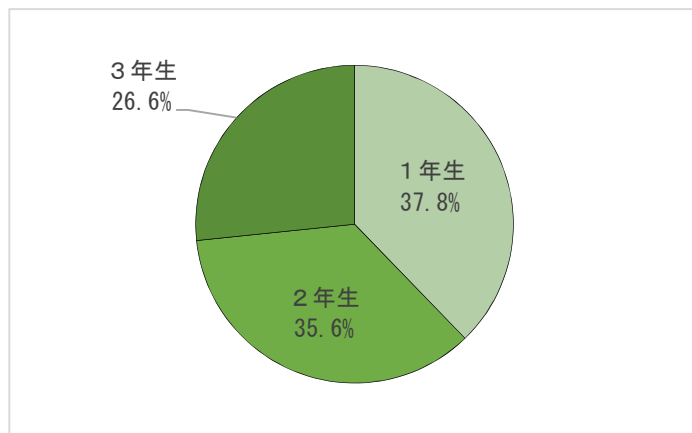
【学校】

回答者数=1,059



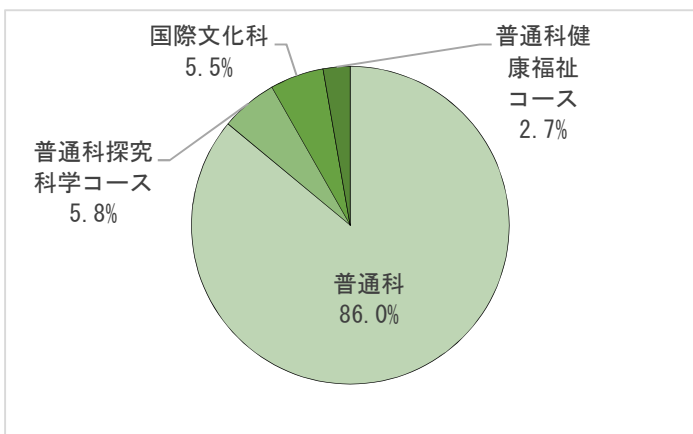
【学年】

回答者数=1,059



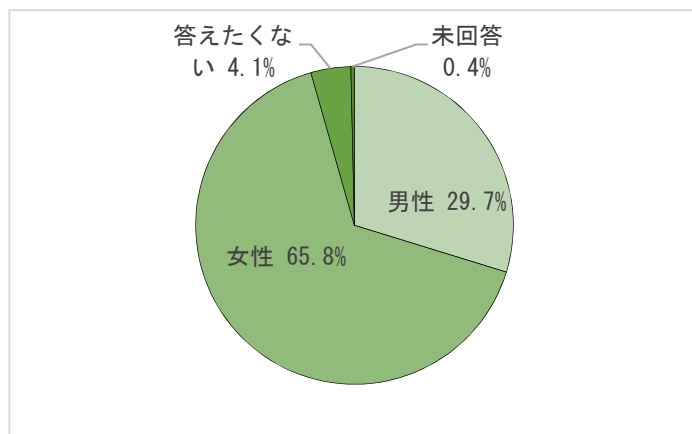
【学科・コース】

回答者数=1,059



【性別】

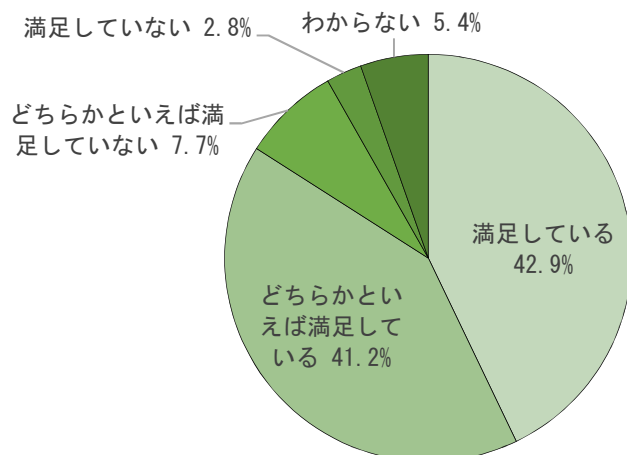
回答者数=1,059



2 設問

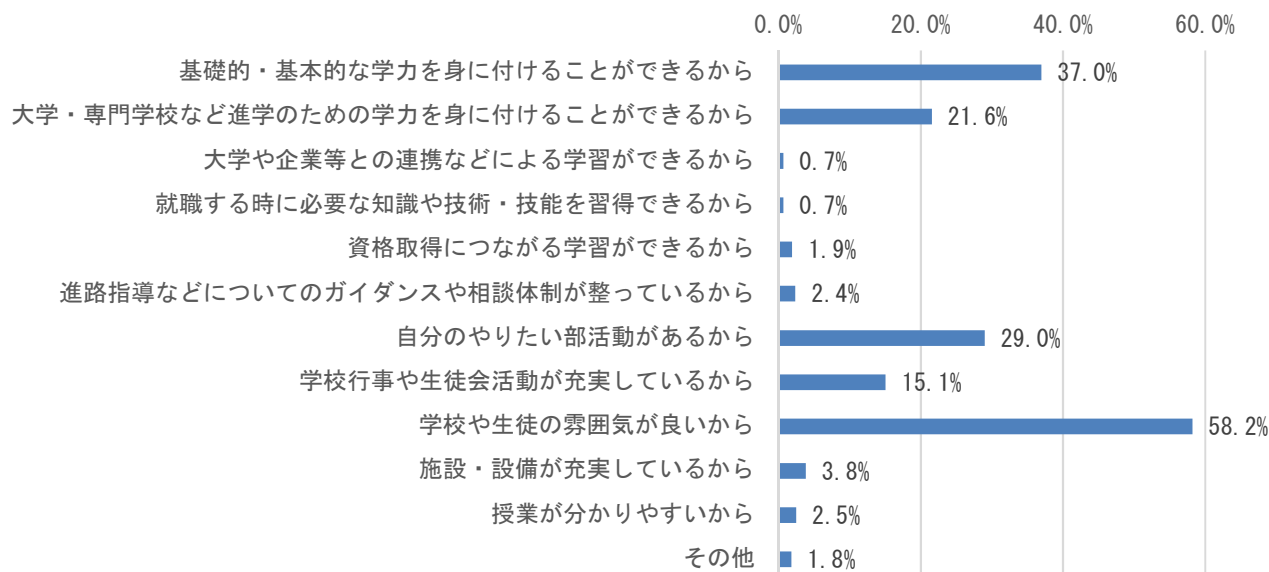
【問1】 あなたは、今の高校に入学して満足していますか。

回答者数=1,059



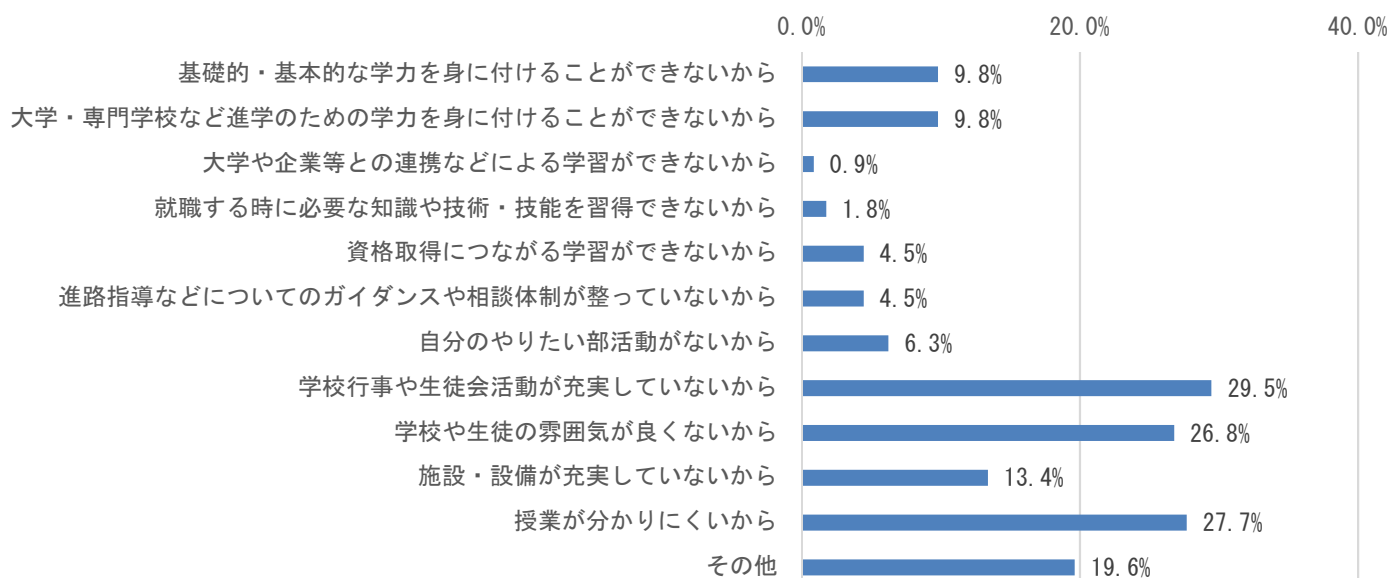
【問2】 「満足している」、「どちらかといえば満足している」と答えた方にお聞きします。そのように回答した理由はなぜですか。(最大2つ)

回答者数=890



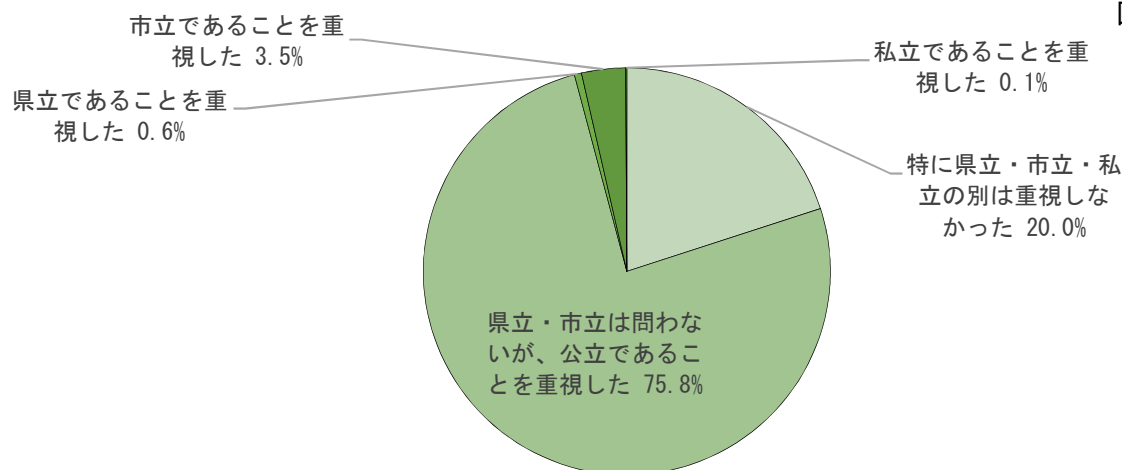
【問3】 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」と答えた方にお聞きします。そのように回答した理由はなぜですか。(最大2つ)

回答者数=112



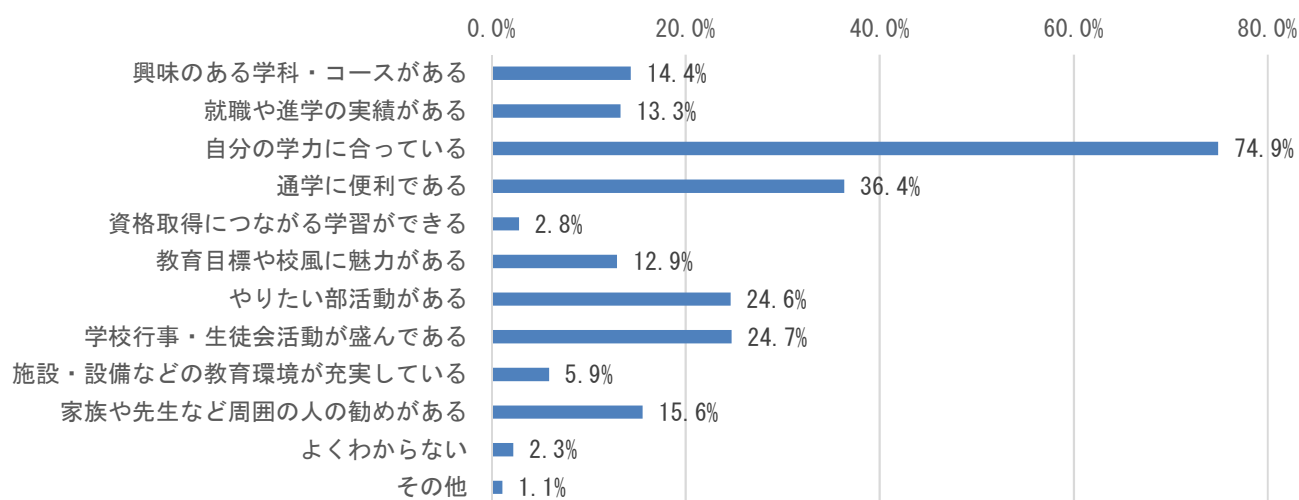
【問4】 あなたは、高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視しましたか。

回答者数=1,059



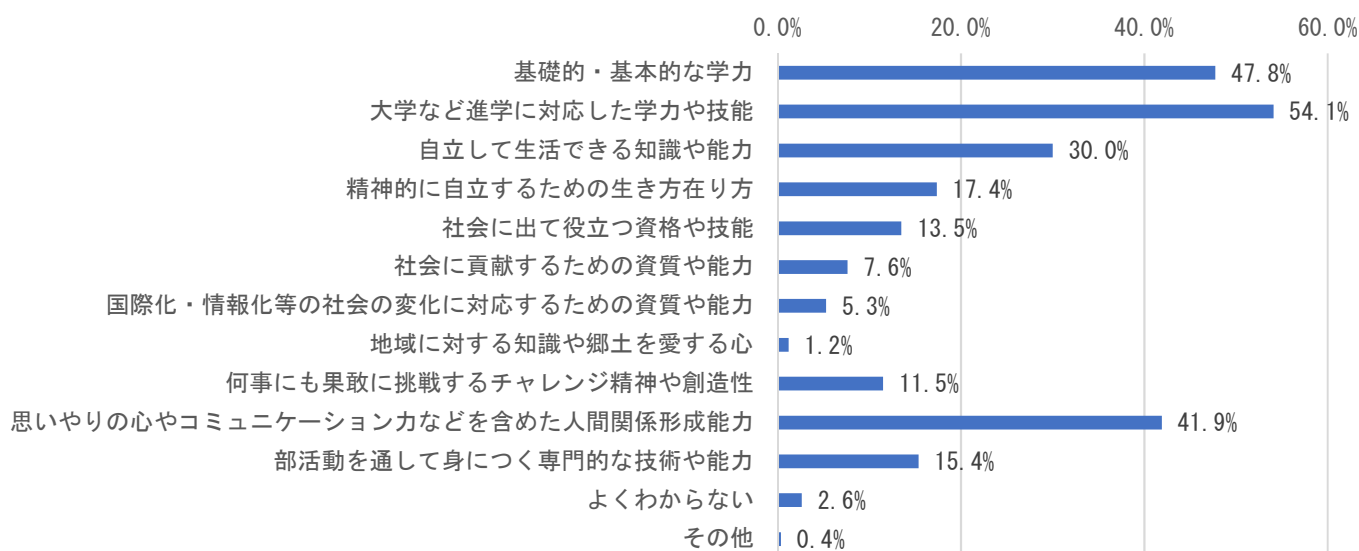
【問5】 あなたは、高校を選ぶ時に、どのような点を重視しましたか。(最大3つ)

回答者数=1,059



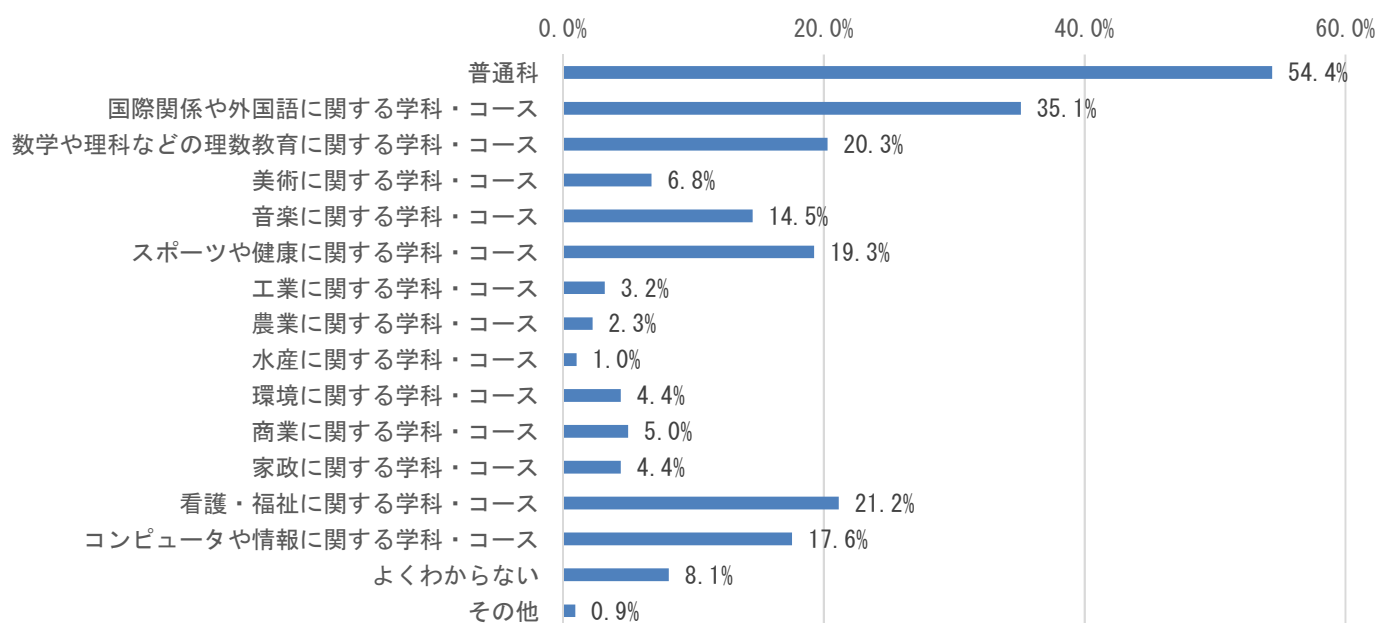
【問6】 あなたは、高校生活でどのようなことを身に付けたいですか。(最大3つ)

回答者数=1,059



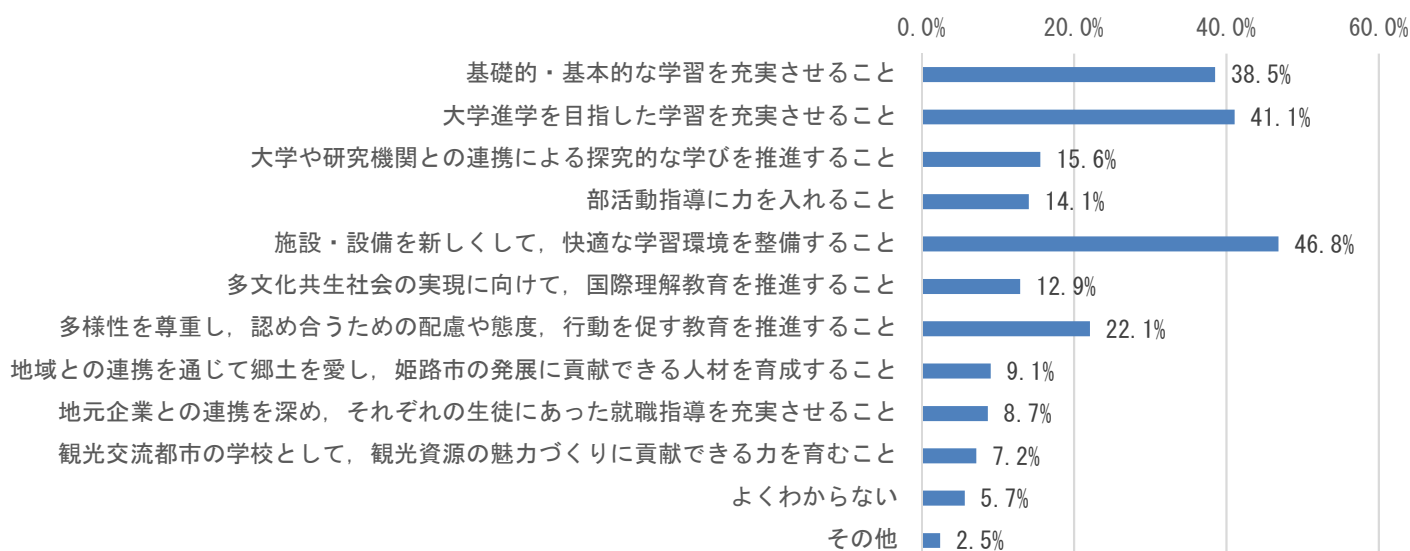
【問7】 より魅力ある高校にするために、市立高校にはどのような学科・コースがあるとよいと思いますか。
(最大3つ)

回答者数=1,059



【問8】 より魅力ある市立高校にするためには何が必要だと思いますか。(最大3つ)

回答者数=1,059

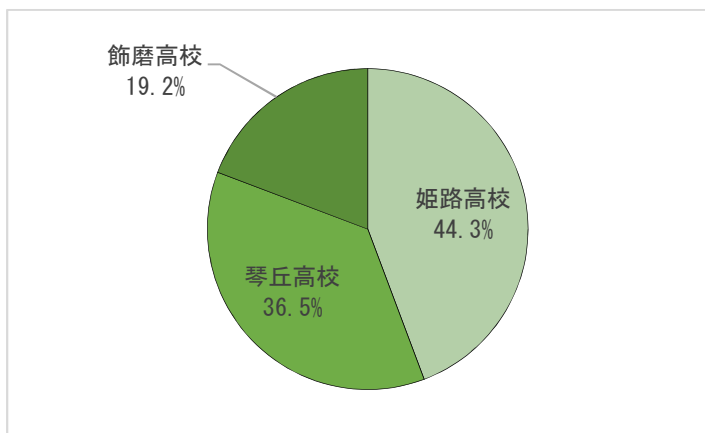


アンケート調査結果（高校生保護者）

1 基本属性

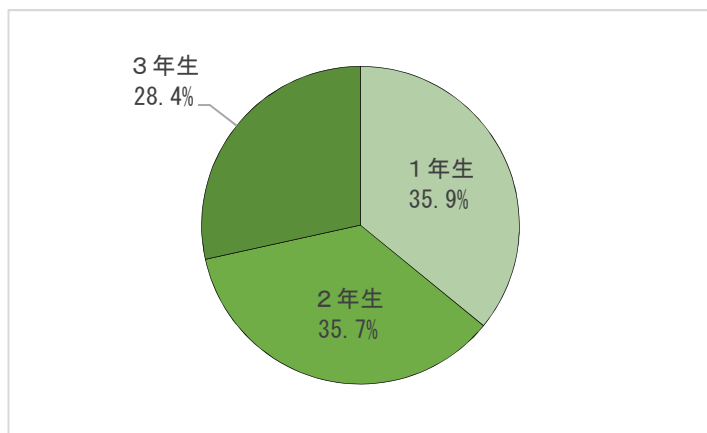
【学校】

回答者数=1,206



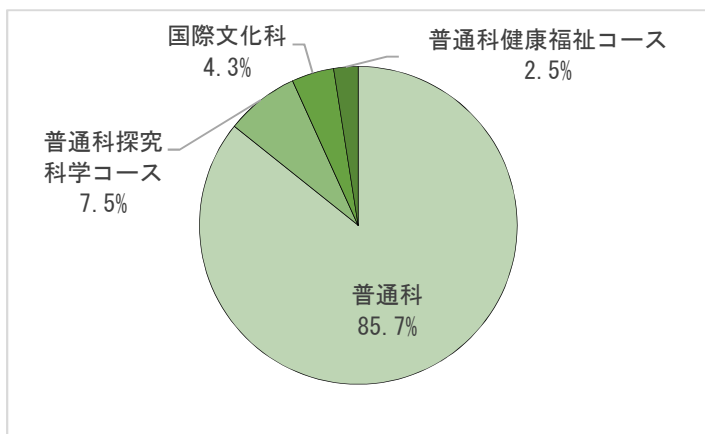
【学年】

回答者数=1,206



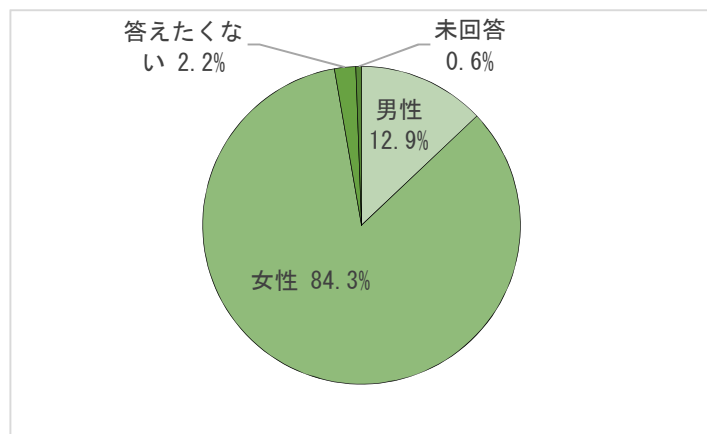
【学科・コース】

回答者数=1,206



【性別】

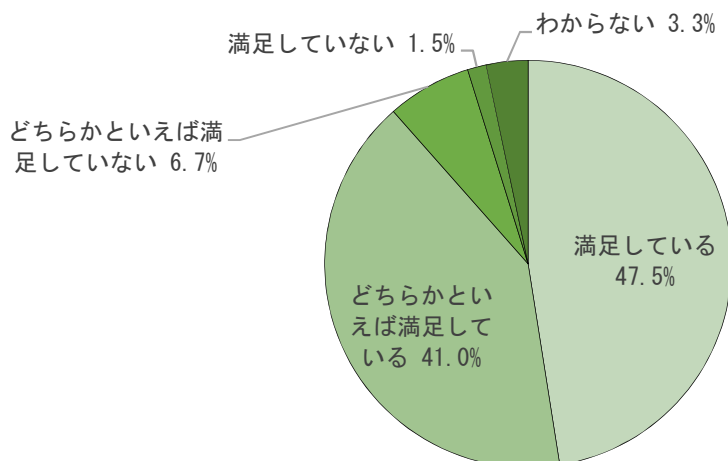
回答者数=1,206



2 設問

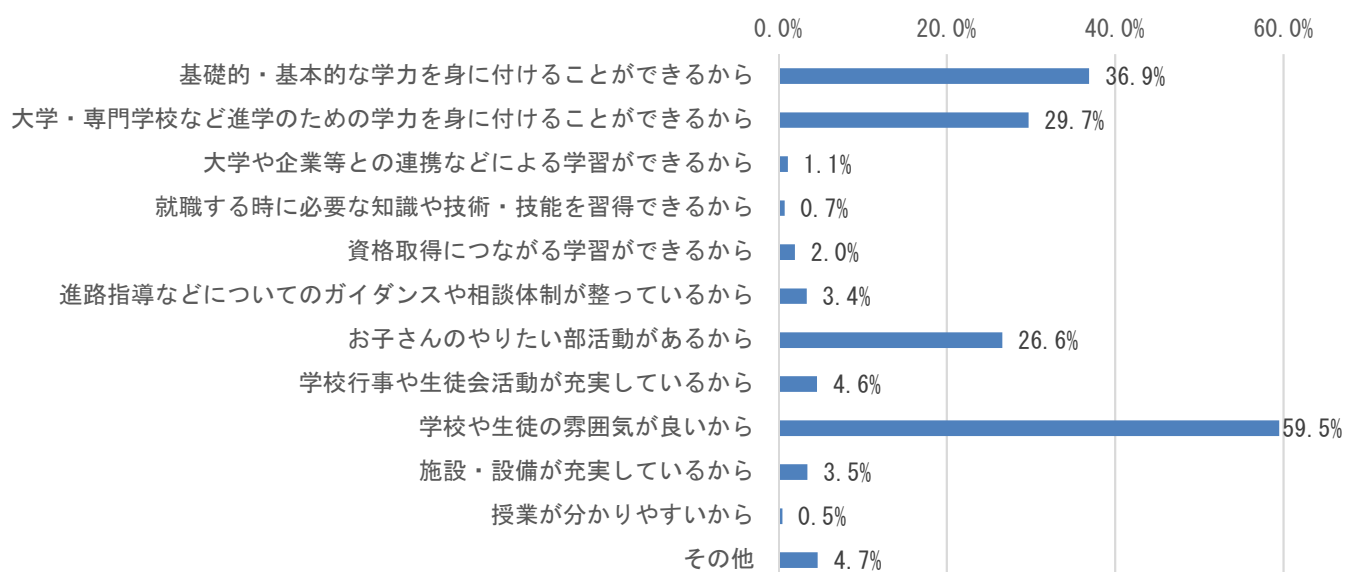
【問1】 あなたは、お子さんが今の高校に入学して満足していますか。

回答者数=1,206



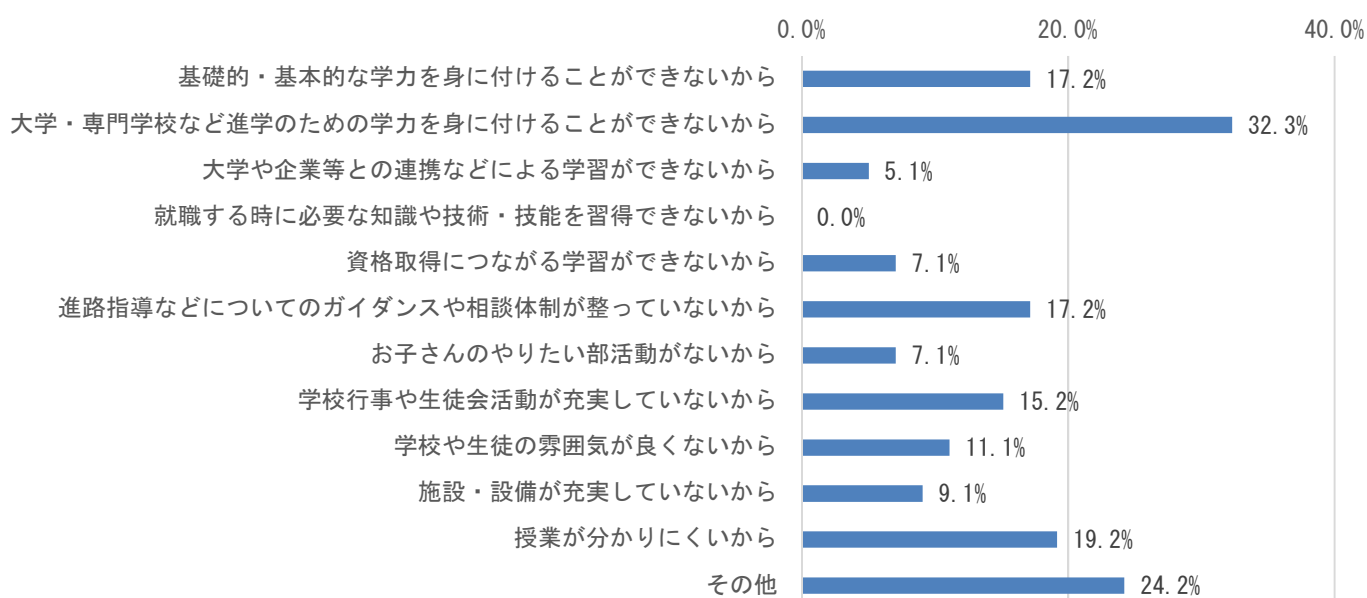
【問2】 「満足している」、「どちらかといえば満足している」と答えた方にお聞きします。そのように回答した理由はなぜですか。(最大2つ)

回答者数=1,067



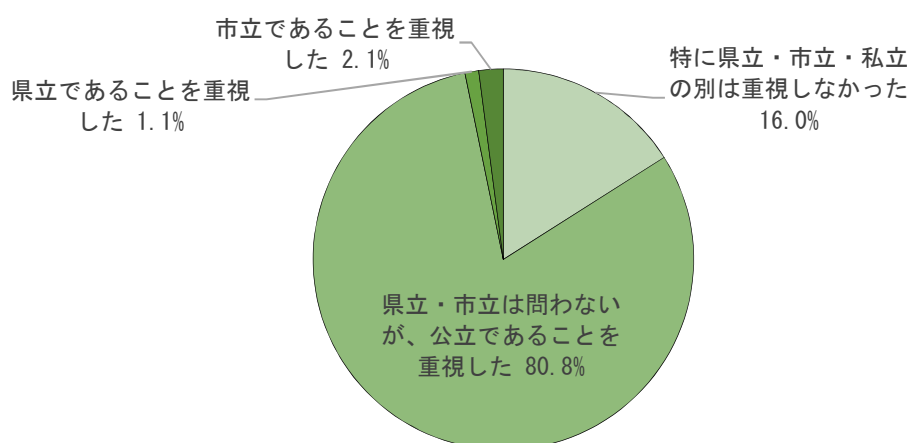
【問3】 「満足していない」、「どちらかといえば満足していない」と答えた方にお聞きします。そのように回答した理由はなぜですか。(最大2つ)

回答者数=99



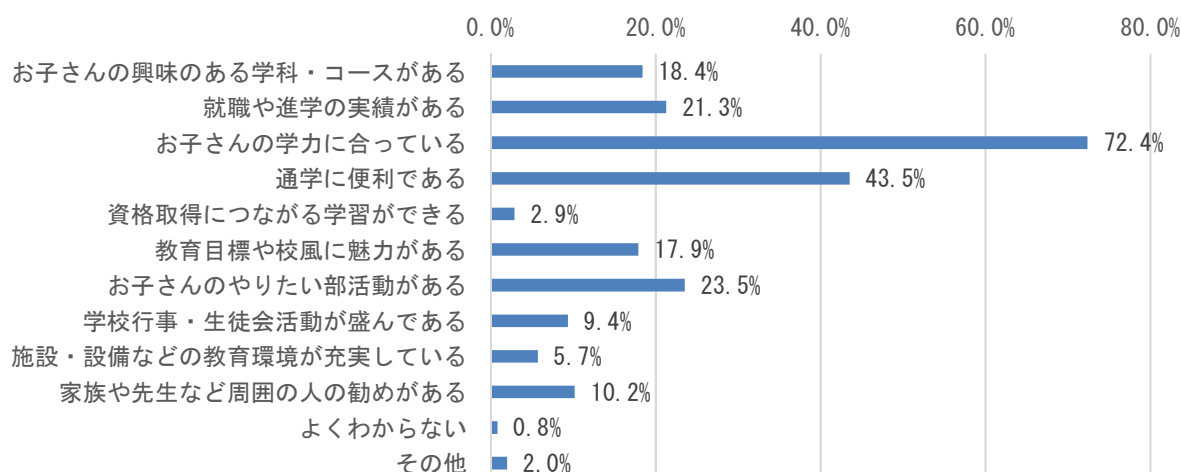
【問4】 あなたは、お子さんが高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視しましたか。

回答者数=1,206



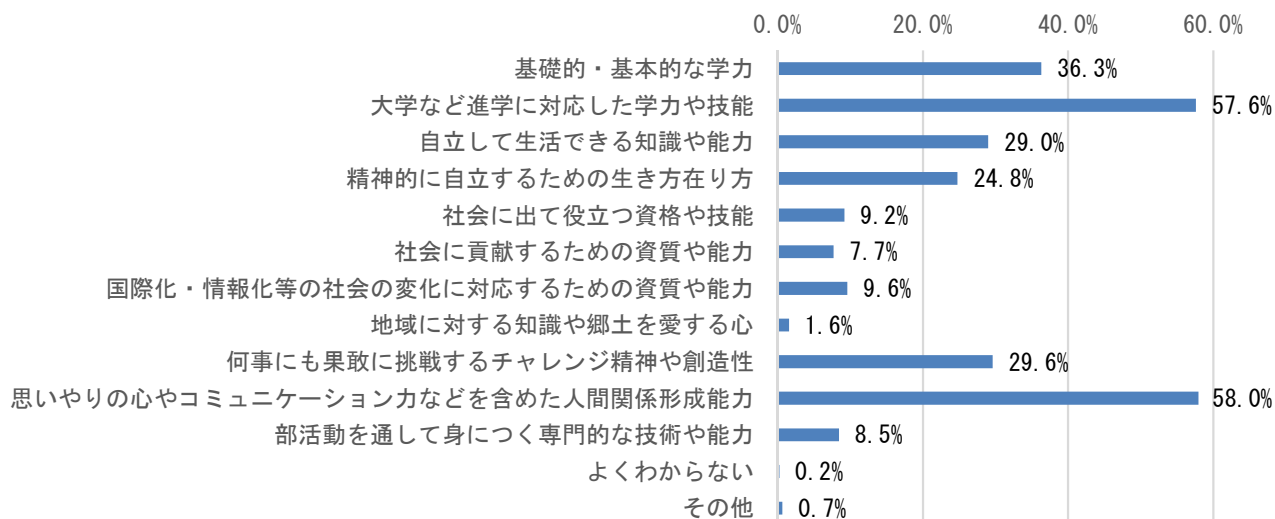
【問5】 あなたは、お子さんが高校を選ぶ時に、本人の意思の他どのような点を重視しましたか。(最大3つ)

回答者数=1,206



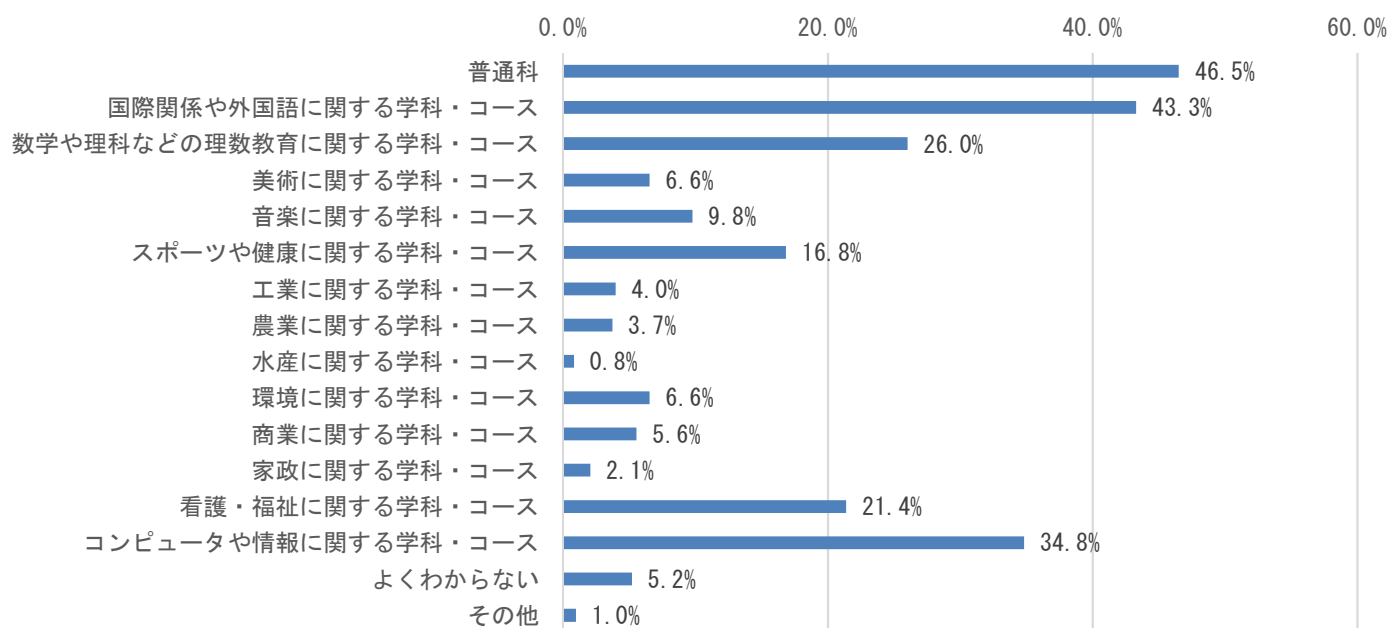
【問6】 あなたはお子さんに、高校生活でどのようなことを身に付けてもらいたいですか。(最大3つ)

回答者数=1,206



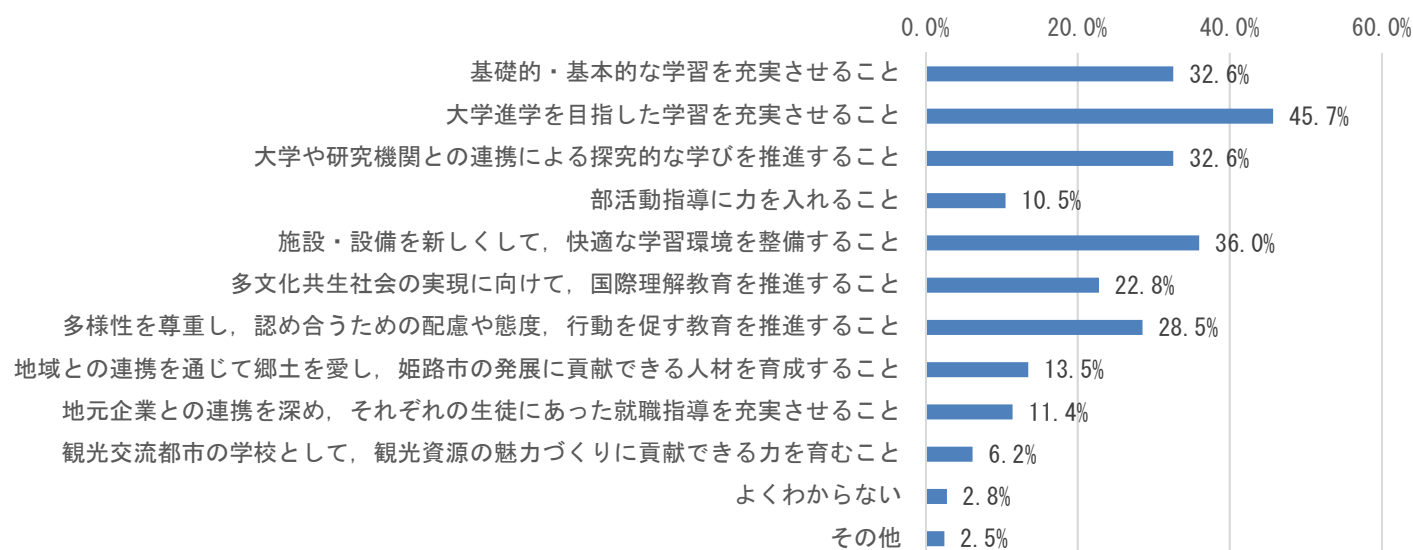
【問7】 より魅力ある高校にするために、市立高校にはどのような学科・コースがあるとよいと思いますか。
(最大3つ)

回答者数=1,206



【問8】 より魅力ある市立高校にするためには何が必要だと思いますか。(最大3つ)

回答者数=1,206

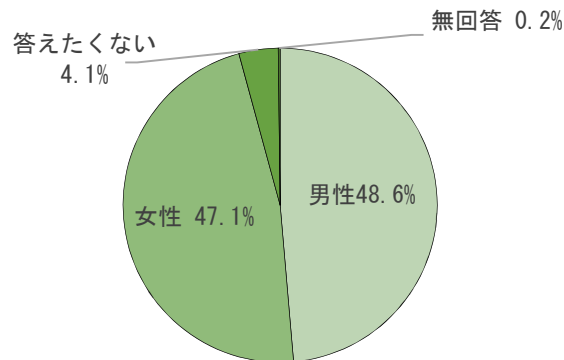


アンケート調査結果（中学生）

1 基本属性

【性別】

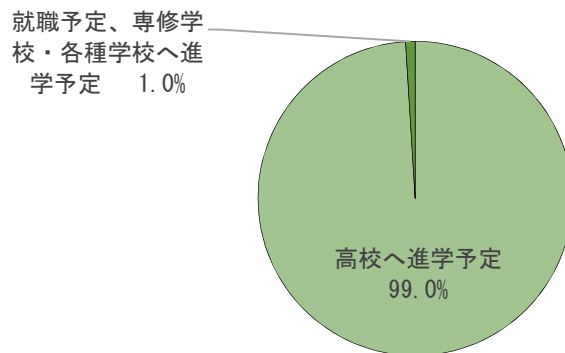
回答者数=1,061



2 設問

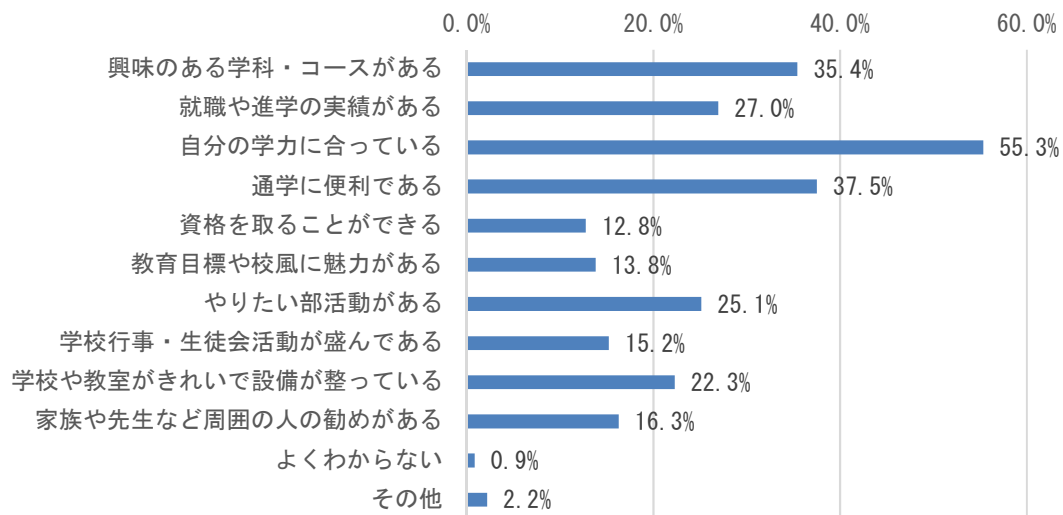
【問1】 あなたは、卒業後の進路をどのように考えていますか。

回答者数=1,051



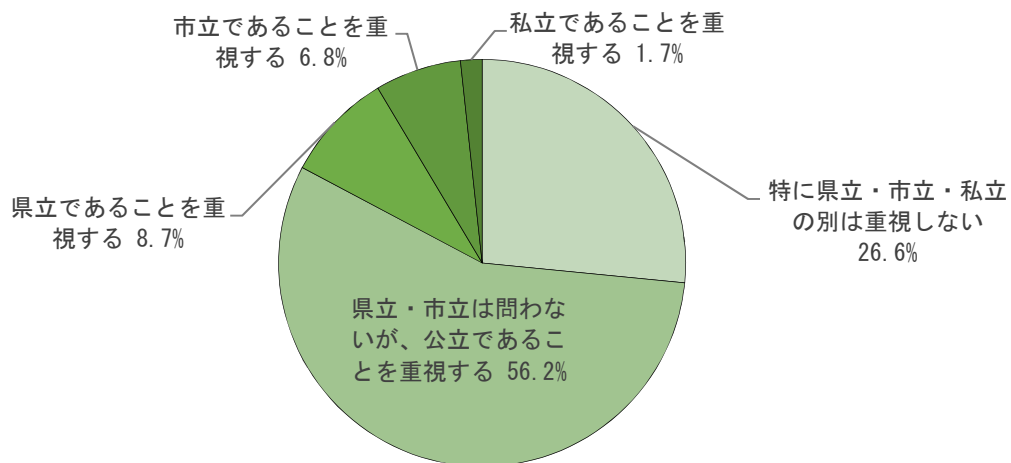
【問2】 あなたは、高校を選ぶ時にどのような点を重視しますか。（最大3つ）

回答者数=1,050



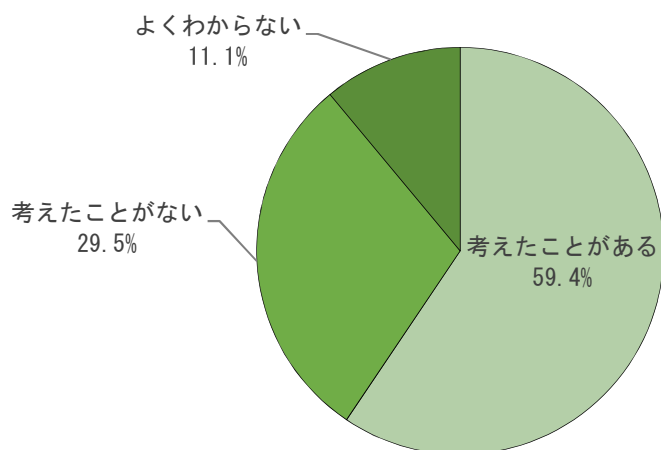
【問3】 あなたは、高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視しますか。

回答者数=1,050



【問4-1】 あなたは、姫路市立高校（姫路高校、琴丘高校、飾磨高校）について、進学先として考えたことはありますか。

回答者数=1,050



【問4-2】 問4-1の回答について具体的な理由がある場合はご記入ください。

■【考えたことがある】

- ・興味のある学科があるから。
- ・自分の今の学力にあっていると思ったから。
- ・やりたい部活があるから。
- ・学校の雰囲気がよく、とても楽しそうだったので。
- ・通学に便利だから。
- ・知っている先輩がたくさんいるから。
- ・入学金や、授業料が安い。
- ・周囲の人に勧められたから。
- ・安定した学力と進学実績があり、どの高校も有名だから。
- ・オープン・ハイスクールに行って興味を持ったから。

■【考えたことがない】

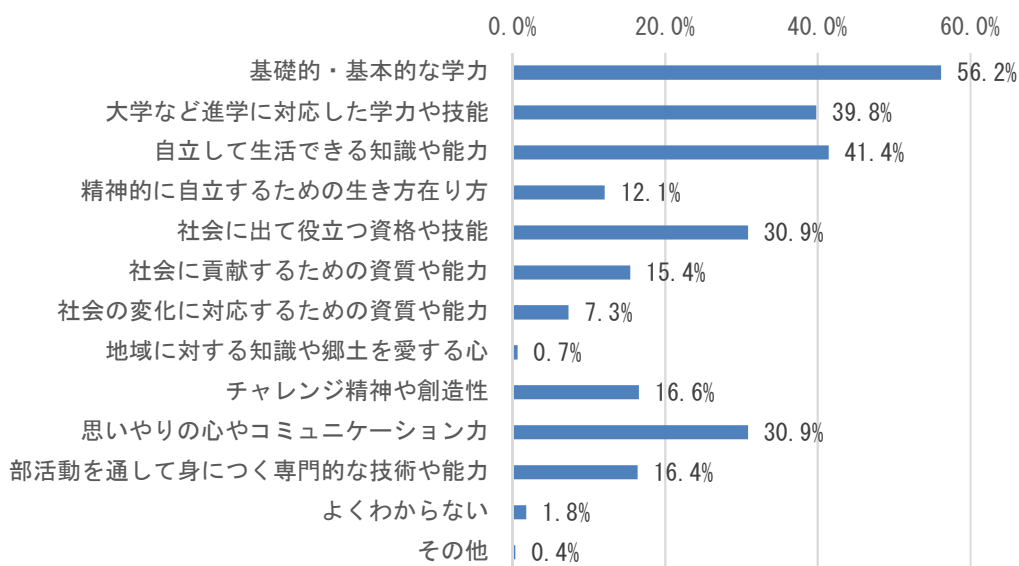
- ・行きたい科がない。
- ・自分の学力にあってないから。
- ・入りたい部活動があまり強くないから。
- ・他に通いたい学校があるから。
- ・就職しやすい学校に進学したい。資格が取れる学校が良い。

■【よくわからない】

- ・あまり高校について知らない。
- ・県立と市立の区別がよく分からないからです。
- ・進路のことが色々と難しい。
- ・市立高等学校に対しての興味が無い(あまり実感がわかない。)

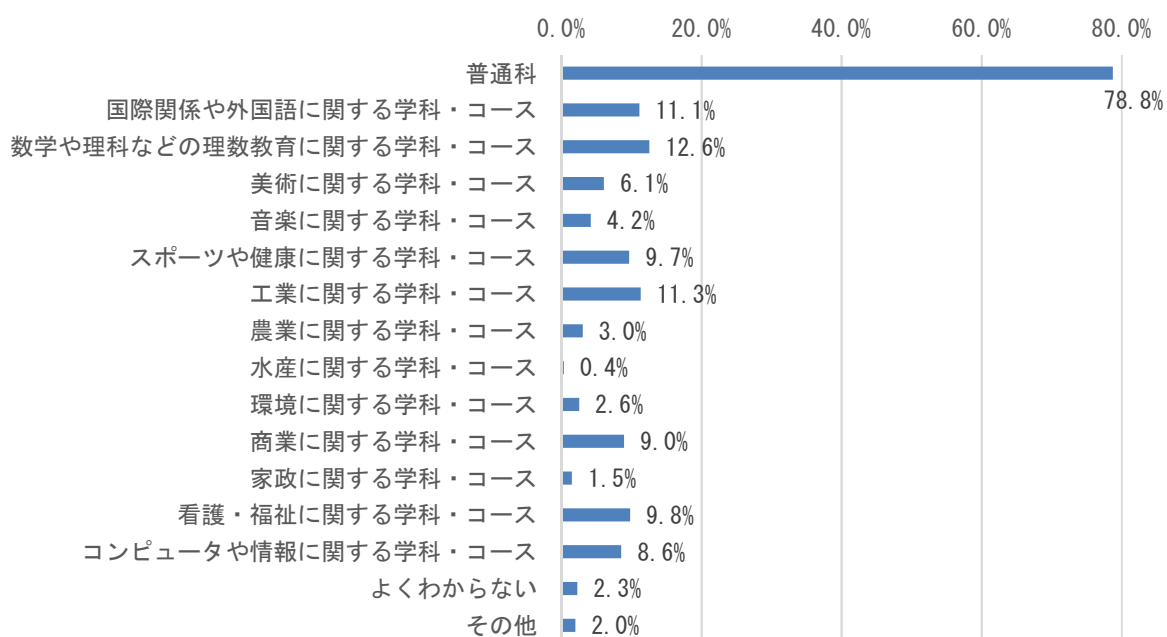
【問5】 あなたは、高校生活でどんなことを身に付けたいですか。(最大3つ)

回答者数=1,050



【問6】 あなたが高校に進学する場合、どのような学科・コースを選択したいですか。(最大3つ)

回答者数=1,050

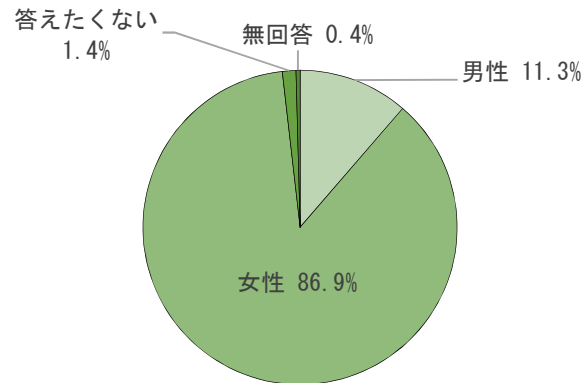


アンケート調査結果（中学生保護者）

1 基本属性

【性別】

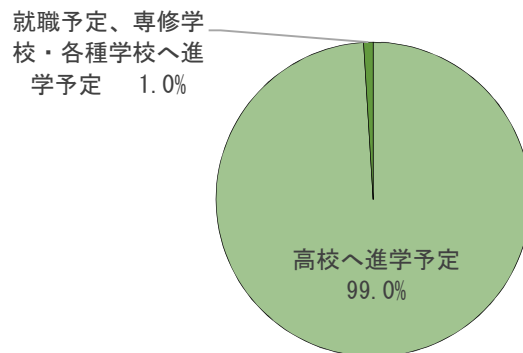
回答者数=723



2 設問

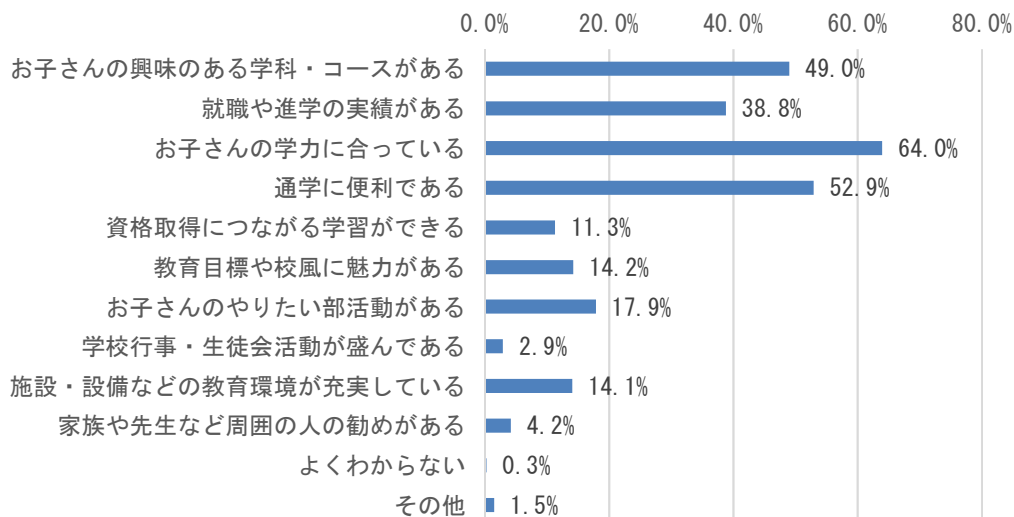
【問1】 あなたは、お子さんの卒業後の進路をどのように考えていますか。

回答者数=723



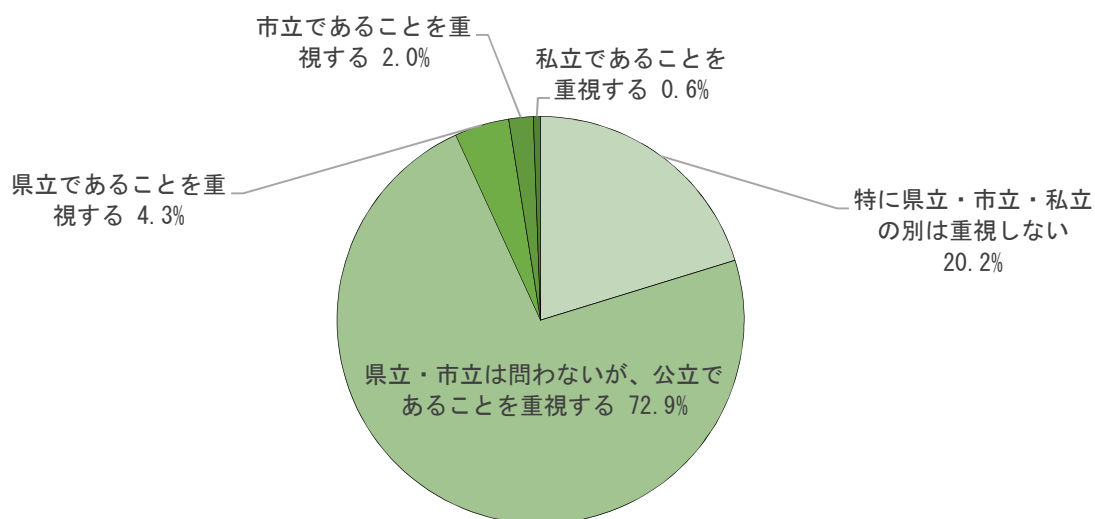
【問2】 あなたは、お子さんが高校を選ぶ時に、本人の意思の他どのような点を重視しますか。（最大3つ）

回答者数=716



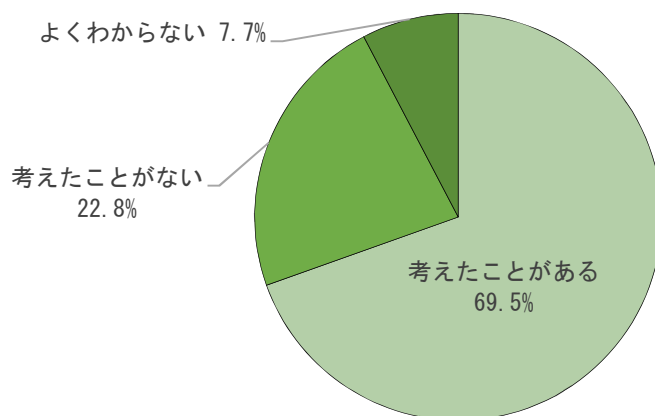
【問3】 あなたは、お子さんが高校を選ぶ時に県立・市立・私立の別を重視しますか。

回答者数=716



【問4-1】 あなたは、姫路市立高校（姫路高校、琴丘高校、飾磨高校）について、お子さんの進学先として考えたことはありますか。

回答者数=716



【問4-2】 問4-1の回答について具体的な理由がある場合はご記入ください。

■【考えたことがある】

- ・子供の興味のあるコースがあるため。
- ・子供の学力に合っているから。
- ・オープン・ハイスクールに行かせてもらった時、部活動が盛んで先生、生徒さんが楽しそうに頑張っている姿が印象的でした。
- ・どの学校も雰囲気がとても明るく、通っている生徒が楽しそうだから。
- ・通学がしやすいから。
- ・自分の出身校である。
- ・近くて学費が安いから。
- ・本人が希望する高校が市立のため。
- ・プールが無いから。

■【考えたことがない】

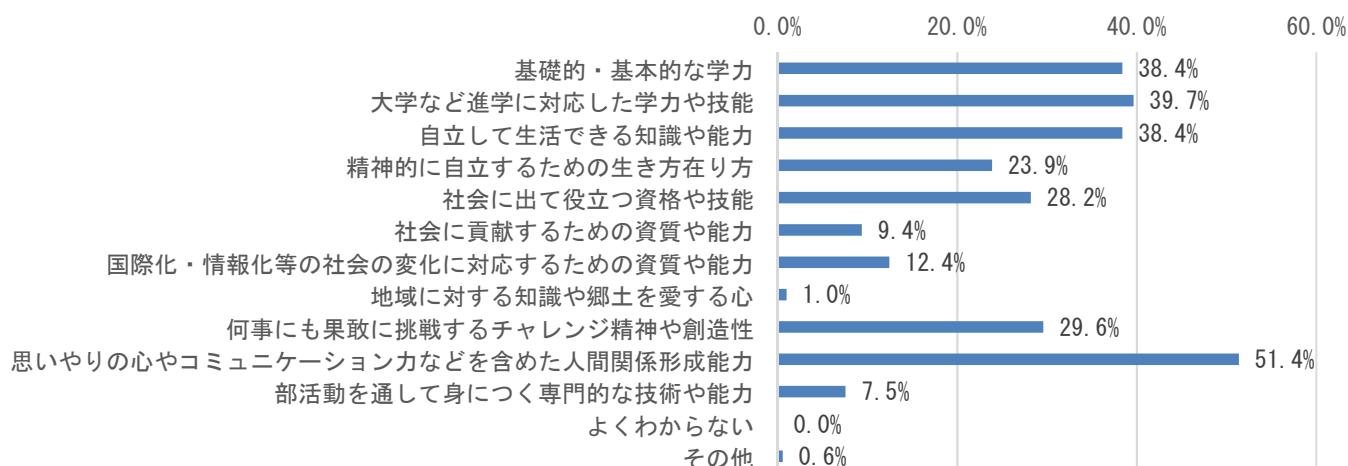
- ・子供の学力に合致していないため。
- ・遠いので通学に時間がかかる。交通費が高い。
- ・子供が目指している高校が別にあるので。
- ・行きたい学科が無いから。

■【よくわからない】

- ・子供自身は市立高校（飾磨）への進学を希望しているが親としては県立高校と市立高校の違いが良く分からない。しかし子供が勉強したいコースがあるので県立、市立に関係なく子供の希望を優先したいと思っています。

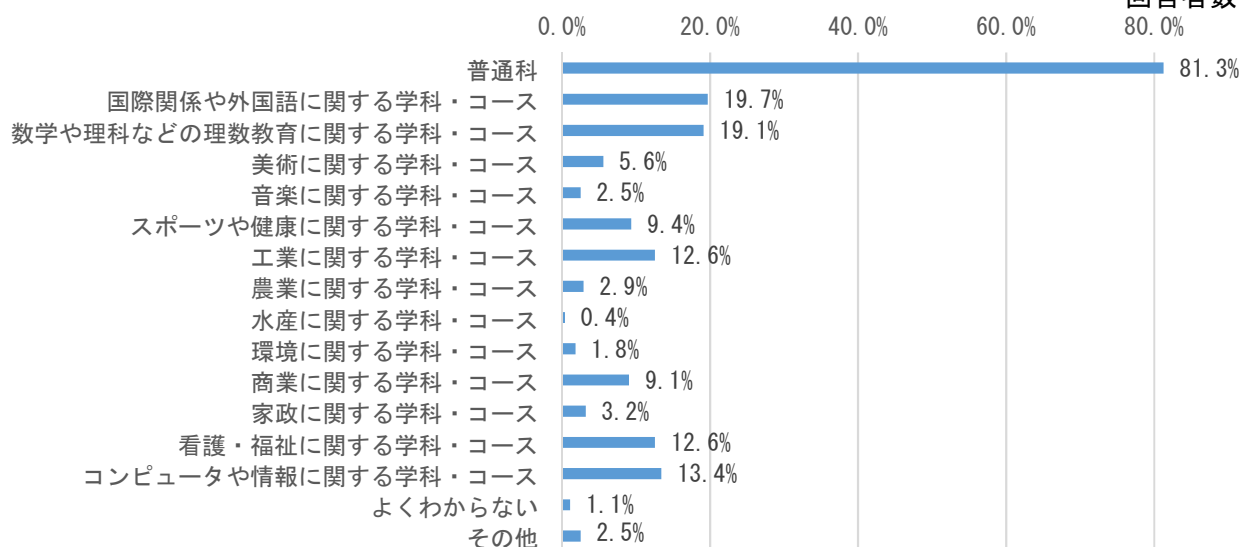
【問5】 あなたはお子さんに、高校生活でどのようなことを身に付けてもらいたいですか。(最大3つ)

回答者数=716



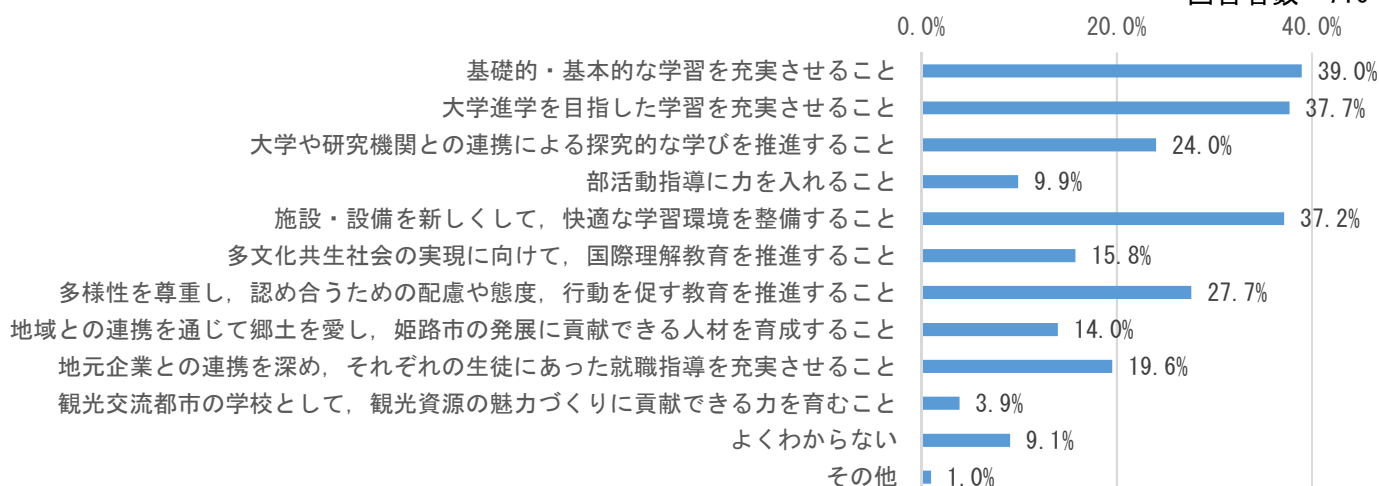
【問6】 あなたのお子さんが高校に進学する場合、どのような学科・コースを選択させたいですか。(最大3つ)

回答者数=716



【問7】 より魅力ある市立高校にするためには何が必要だと思いますか。(最大3つ)

回答者数=716

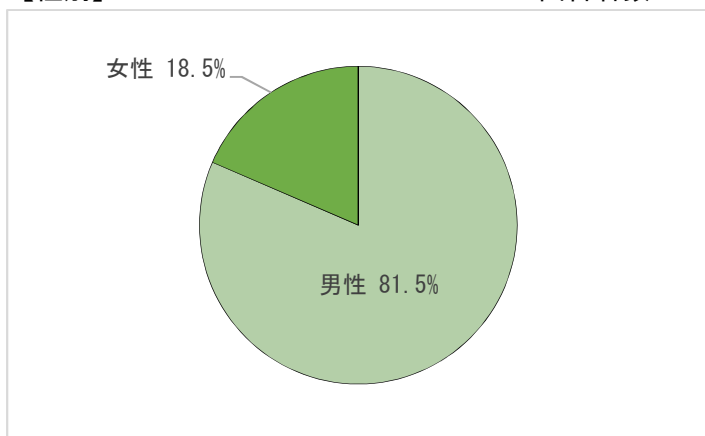


アンケート調査結果（卒業生）

1 基本属性

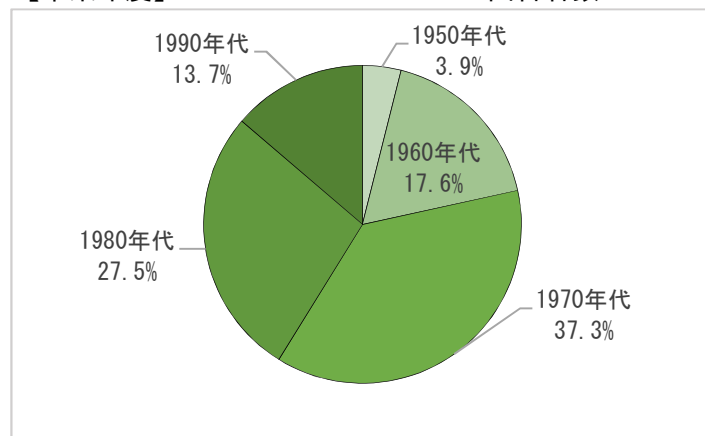
【性別】

回答者数=54



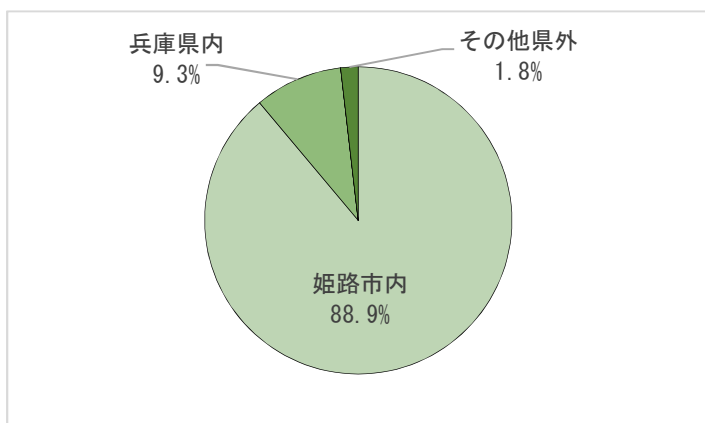
【卒業年度】

回答者数=51



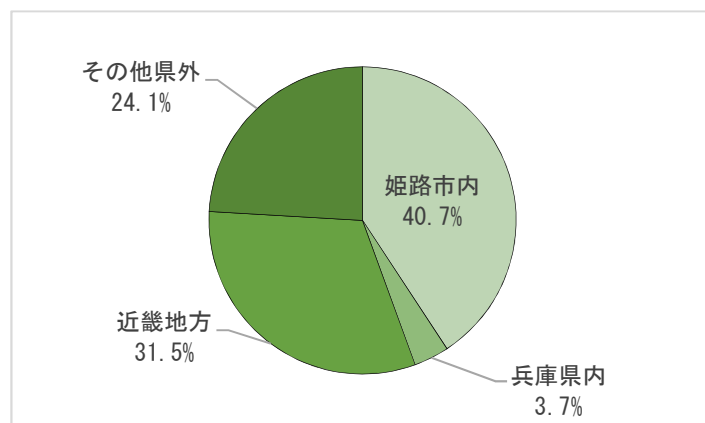
【居住地】

回答者数=54



【高校卒業後の居住地】

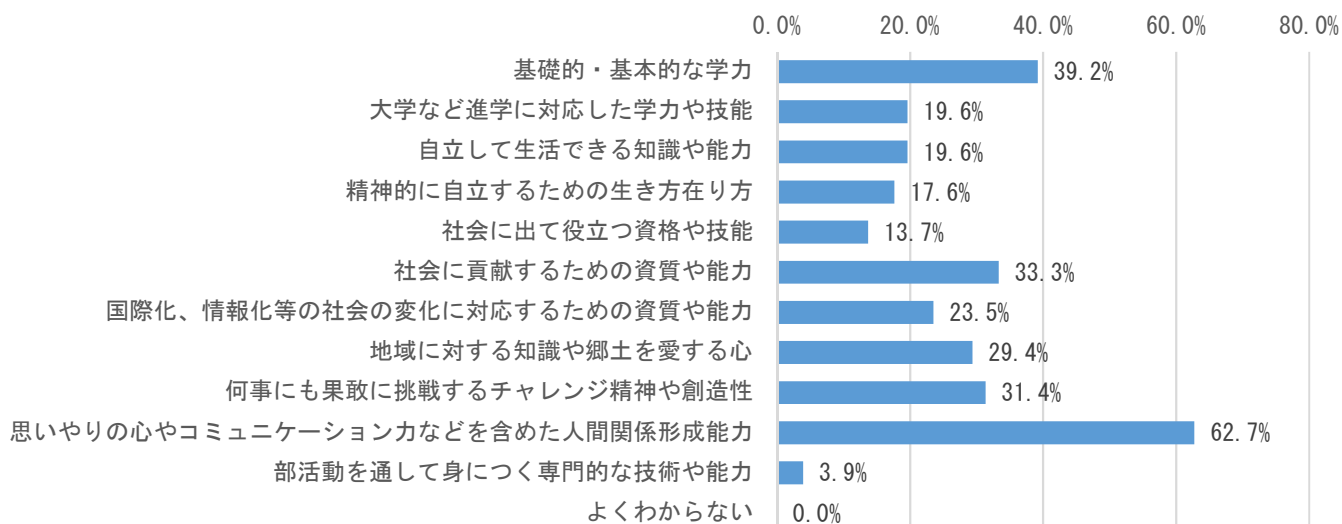
回答者数=54



2 設問

【問1】 現在の（姫路・琴丘・飾磨）高校の生徒に身につけてほしいと思うことは何ですか。（最大3つ）

回答者数=51

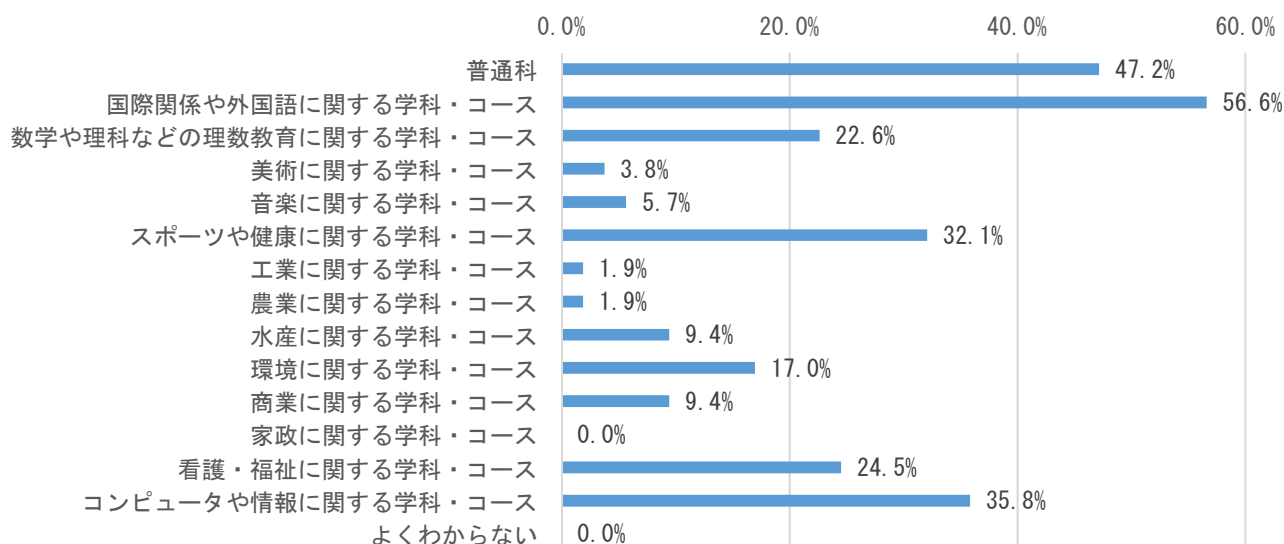


【その他意見】

- ・学力や技能以上に、生きる力（知恵・キャリア教育）や道徳的な価値を身に付けてほしい。（姫路）
- ・姫路高校の大きな魅力は、人間性のある素晴らしい人材を輩出しているところだと思っています。（姫路）
- ・基本素直な生徒が多いと思います。反面コンプレックスも持ち合わせている生徒も多く、自己表現力に欠ける傾向があります。外交的な性格を養える教育活動を望みます。（琴丘）
- ・人としての正しい生き方・考え方（琴丘）
- ・琴丘の生徒は伝統的にまじめで忍耐強く、何事にもひたむきに取り組むことができる。学力面では、学区内のトップ校に追いつくことは難しいかもしれないが、精神性においては確実に勝るものがある。自らに誇りを持ち、さらに高めてほしい。（琴丘）
- ・道徳を身に付けてほしい。（姫路）
- ・自由な校風の中で多彩な発想ができる人間の育成があるのが琴丘高校だと思います。（琴丘）

【問2】 より魅力ある高校にするために（姫路・琴丘・飾磨）高校にはどのような学科・コースがあるとよいと思いますか。（最大3つ）

回答者数=53



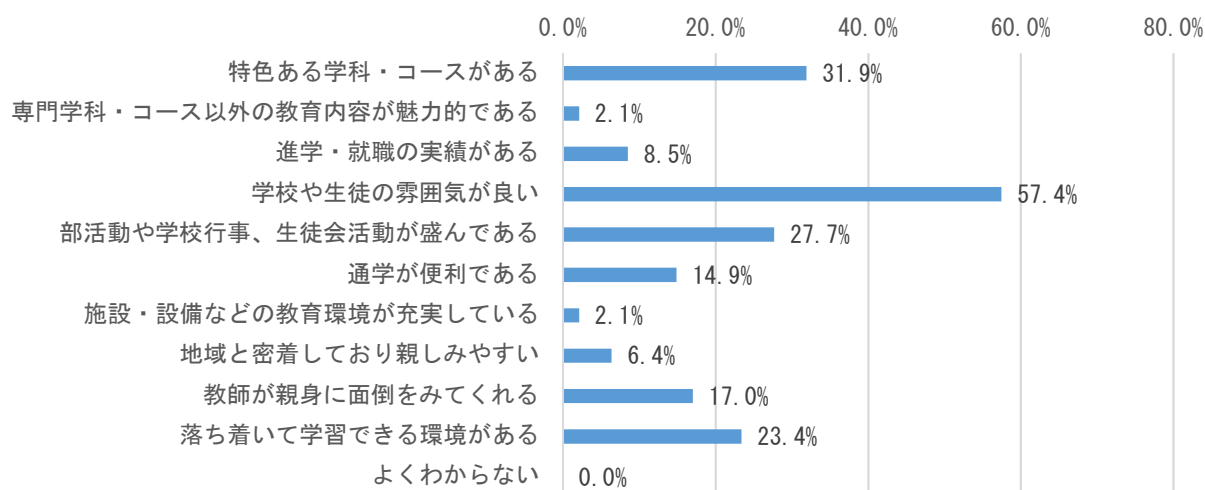
【その他意見】

- ・バカロレア認定校（姫路）
- ・キャリアコース・社会探究（姫路）
- ・市内輩出のトップアスリートが現在いません。中学までで有能な選手は京阪神の強豪校へ行ってしまいます。市内でアスリートを育成することは子どもたちの希望になる。（飾磨）
- ・現在ある探究科学（文理融合）に関する学科・コース（姫路）
- ・商工農などの学科よりは、他にはない特色ある学科・コースがあるほうが良いと思います（姫路）
- ・普通科から専門コースへ移行できるシステムを取り入れてほしいです。気づきや学びの意識を最優先してほしいです。（琴丘）
- ・公務員になれる勉強をするコース（飾磨）
- ・地域産業に即応できるエキスパート人材の育成教育ができる学校が必要かと。（飾磨）

- ・複数志願入試による学力輪切りの選択方式が明確な目的や希望を持っている中学生の琴丘高校への入学を阻んでいる。学科を新設したり、国際文化科を見直したりすることを模索し、強い思いを抱いている中学生に門戸を開くべき。何より「市立高校」として県立とは一線を画す独自性を創出する必要がある。(琴丘)
- ・英語科が注目され、レベルアップのきっかけになったように、これからの時代は業種・規模に関わらずオンリーワンを持っている事業体しか生き残れていないことを前提に考えていくべきです。(琴丘)
- ・水産は近畿大学との連携や、地元漁協と協力し、瀬戸内の海産物の養殖産業について学べるような学科はどうですか。看護に関する学科は、獨協大学の市立化の話があるようなので、姫路市に医療大学構想と併せて考えてはどうですか。(飾磨)
- ・福祉コースはありますが、看護科なども充実してほしい。姫路獨協大学と連携できればいい。(飾磨)

【問3】 (姫路・琴丘・飾磨) 高校の良さは何だと思いますか。(最大2つ)

回答者数=47

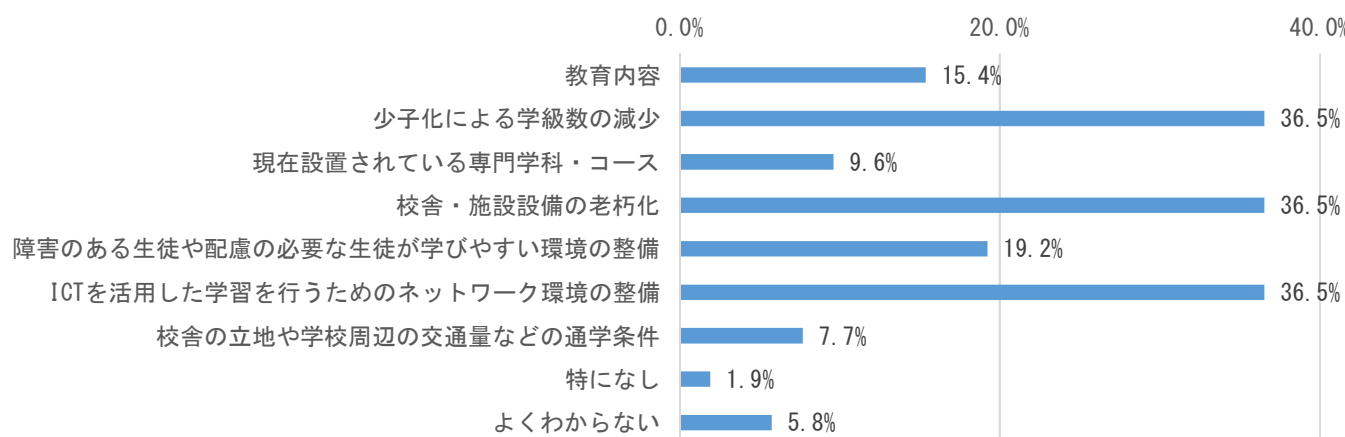


【その他意見】

- ・高校を中心部に集結させるのではなく、海岸部の交通至便な場所に置くことは必要である。(飾磨)
- ・生徒の自主性を養える校風、教育活動を。(琴丘)
- ・西播磨4市3町の中学生にとって大きな選択肢の1つとなっている。本校は未来を託す子どもたちのために欠かせないと思います。(琴丘)
- ・昨今変わることなく学区内屈指の倍率・志願者数を誇る最大の要因は校風と立地であることは間違いない。また、幅広い進路希望に対応する指導も特筆すべき点である。(琴丘)
- ・山陽沿線で通学として便利なので高校として残してほしい。(飾磨)

【問4】 現在の（姫路・琴丘・飾磨）高校における課題はありますか。（最大2つ）

回答者数=52

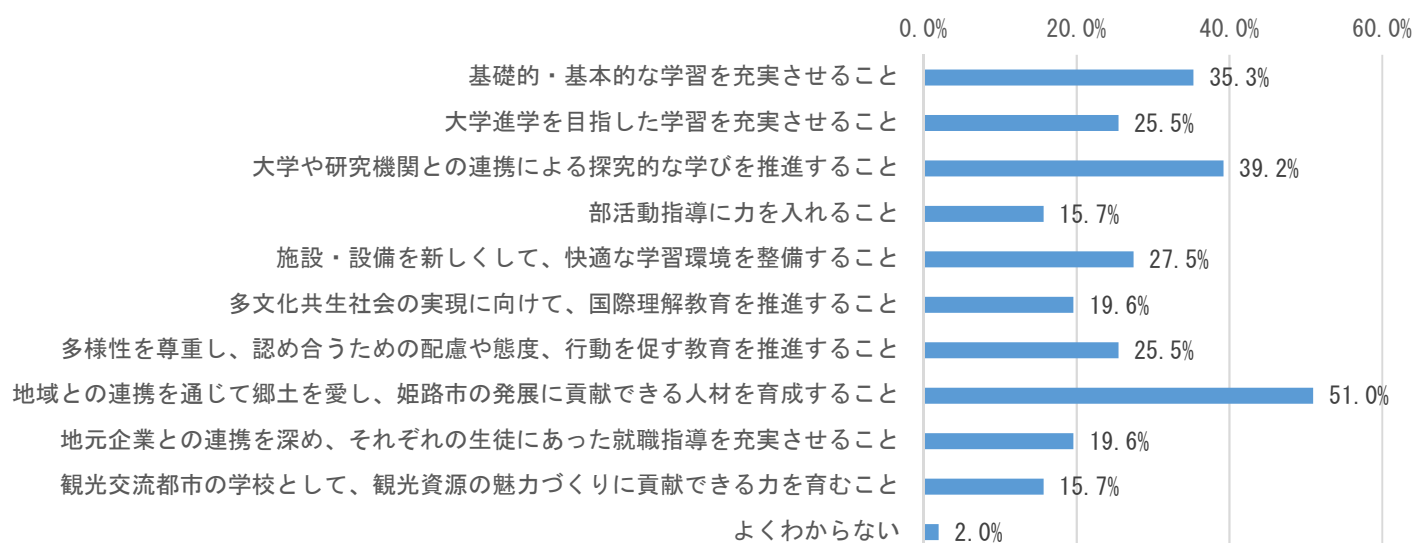


【その他意見】

- ・他校との兼ね合いや位置づけにこだわらず、学力もですが、社会で使えるスキルを身に付ける。共生社会に通じる教育を。(琴丘)
- ・教育内容について、専門分野の高いスキルを身に付けさせるべく、専門分野の企業や大学から講師を招くなどして学習内容を充実させる。(飾磨)
- ・学区随一の志願者数を募る学校でありながら、今年度学級減の措置を受けたことは地域のニーズに背くものであり、不可解である。一定の規模を保たなければ活発な活動の維持は困難となり、特色も薄れていく。トップ進学校の学力の質を維持させることが優先であるのであれば、むしろそういった学校の学級数を減ずべき。(琴丘)
- ・学校予算に限りがあるのは十分分かります。しかし、学校教育に求められているものは大きく、そのため、健康福祉コースはもちろん、先生方が学びのためにと考えてくださっても予算がなかったり、あっても思うように使えなかったりという現状があるように思います。その点が改善されると今よりも魅力ある学校になると思います。(飾磨)
- ・もっと専門学科を社会にPRするべき。又、卒業後も繋がりを強化し、飾磨高校卒をブランド化する。(飾磨)

【問5】 より魅力ある（姫路・琴丘・飾磨）高校にするためには何が必要だと思いますか。（最大3つ）

回答者数=51



【その他意見】

- ・生徒が将来に向かって様々な希望を持つことができるような学校であってほしいと思います。（姫路）
- ・自分のため→地元のため→日本のため→世界のためとなる思考を育ててあげてほしいです。琴丘高校の卒業生である事のプライドを外に発信できるように。（琴丘）
- ・日本の先人に学ぶことを推進する。（琴丘）
- ・地元に残って姫路市の活性化に貢献できる公務員などになれる人材を育成できるとよいと思います。（飾磨）
- ・市立3校それぞれの特色を生かし、連携・協力を深め3校それぞれが地域に愛される学校づくりが必要だと思います。（琴丘）
- ・琴丘の卒業生には、地元密着で地域経済に貢献されておられる経営者の方が多数おられる。また、各産業分野にわたり、現場で下支える役割を果たされている方が非常に多い。創立100年を超える地域屈指の伝統校であることは今後も尊重されなければならない。（琴丘）
- ・これらの項目は大なり小なりありますが、今できる範囲で取り組んでくださっていると思います。飾磨は進学・就職両方の生徒が在籍しているため、社会に出ていく前に自分自身が役に立てる実感を持って卒業できるよう導くことが必要ではないかと思います。そのためには、ハード面、ソフト面両方の環境を整えることが必要だと思います。（飾磨）
- ・市立高校と市立大学を連携し、中長期にわたる進路開拓と地域人材開拓を目指してほしい。今、市立大学構想があることを聞きました。飾磨高校は、健康福祉コースが有り、一定の評価を得ています。今後の新姫路市立大学に医療、薬学、健康福祉に関する学部を設置し、姫路市立大学附属飾磨高校の健康福祉コースとして、新設市立大学への高大連携教育に繋がり、地域に大きな希望と地域人材の創出になります。是非よろしくお願ひします。（飾磨）

第2期 姫路市教育振興基本計画（抜粋）

第3章

姫路の教育の目指す姿

1 基本理念

第1期姫路市教育振興基本計画に基づくこの5年間の取組状況や社会情勢・教育環境の変化等を踏まえ、次の5年間の姫路の教育の基本理念を示す。

〔基本理念〕

「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」
～自立し、認め合い、つながる教育を目指して～

教育は、「人格の完成」と「平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成」を目指して行われる人づくりである。少子高齢化やグローバル化が進む中、人生100年時代や超スマート社会といった激動の時代を、人間ならではの感性や創造性を発揮し、主体的な学びや多様な人々との協働を通じ、豊かな社会と新たな価値観を生み出せる人間の育成が求められている。

姫路をふるさととして共有する一人一人の個人が、自他の生命を互いに尊重しながら心豊かにたくましく、自らの人生を生き抜いていく力を育むことが、確かな未来を創造することにつながると期待する。未来とは、個人の未来、ふるさと姫路の未来、世界の未来でもある。自らが生きる未来を見据え、自己実現を図れる人間は、将来の豊かな地域社会を形成する基盤となる。

これらのことから、第2期計画の基本理念は、第1期計画を継承し、「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」と設定した。

また、副題については、基本理念の実現に向けた、本市教育の方向性を示すものとして、「自立」「認め合い」及び「つながり」の三つの言葉を設定した。「自立」した人間として主体的に判断し、多様な人々と互いを「認め合い」ながら協働し、新たな価値を創造できる人を、生涯にわたる育ちと学びの連続性や、他者との関係性などの「つながり」の中で育成する教育の振興を目指して、「自立し、認め合い、つながる教育を目指して」とした。

2 目指す人間像

基本理念の実現に向けて、学校教育の充実や生涯学習社会の構築に取り組むことにより、次のような人間が育つことを目指していく。

〔目指す人間像〕

- ・ 知・徳・体の調和がとれ、夢や志を持ち、自ら学び続ける自立した人間
- ・ ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる人間
- ・ 互いの伝統や文化を尊重し、多様な人々と共生する人間

超スマート社会の実現など、社会構造の急速な変革が見込まれる中、その変化を前向きに受け止めながら、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育むことが重要である。夢や志を持って可能性に挑戦するために、生涯にわたって主体的に学び続ける自立した人間の育成を目指す。

自分が生まれ、育ち、住んでいる地域をふるさととして大切に思い、愛着や誇りを持つことで地域の将来を考える。そして、技術革新やグローバル化への対応による社会（地域・国・世界）の持続的な発展のために、学校・家庭・地域で連携し、協働できる人間の育成を目指す。

我が国の伝統や文化を深く理解した上で、世界の多様な文化の中で自他の違いを認め、尊重することが大切である。そして、感性や創造性を発揮しながら、年齢、性別、国籍、経済事情、障害の有無などにより、異なる文化や価値観を持つ多様な人々と共に生きる人間の育成を目指す。

姫路市立高等学校在り方審議会条例

令和3年3月29日

条例第2号

(設置)

第1条 高度情報化社会の進展、人口減少社会の到来等の社会情勢の変化を見据えて、活力と特色のある市立高等学校づくりを推進するための基本的な方向性について審議するため、姫路市立高等学校在り方審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、次に掲げる事項を審議し、その結果を教育委員会に答申するものとする。

- (1) 市立高等学校の魅力及び特色づくりの方向性
- (2) 望ましい規模と配置
- (3) その他教育委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 審議会は、委員20人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 各種団体から推薦された者
- (3) 市民
- (4) その他教育委員会が適当と認める者

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(審議会の会議)

第5条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。

3 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 会議は、これを公開する。ただし、委員の発議により、出席した委員の過半数で議決したときは、公開しないことができる。

(意見聴取)

第6条 審議会は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(部会)

第7条 審議会は、必要に応じて部会を置くことができる。

2 部会は、審議会から付議された事項を所掌する。

3 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

(守秘義務)

第8条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第9条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(補則)

第10条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和3年4月1日から施行する。

(失効)

2 この条例は、第2条の規定による答申が行われた日限り、その効力を失う。

(招集の特例)

3 最初に招集される会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

姫路市立高等学校在り方審議会 委員名簿

(敬称略。職名等は委員着任時点のもの)

役 職	氏 名	職 名 等
会長	加治佐 哲也	兵庫教育大学 学長
副会長	尾崎 公子	兵庫県立大学 教授
委員	長谷 浩也	環太平洋大学 教授
委員	清瀬 欣之	兵庫県立姫路西高等学校 校長
委員	原 和樹	姫路市立姫路高等学校 校長
委員	中正 佳秀	姫路市立琴丘高等学校 校長
委員	山口 正夫	姫路市立飾磨高等学校 校長
委員	森 道子	姫路市立城乾中学校 校長
委員	松尾 弘子	姫路市立野里小学校 校長
委員	増田 ようこ	姫路市立高等学校PTA連合協議会 会長
委員	竹内 有希	姫路市連合PTA協議会 会長
委員	吉田 貴子	公募
委員	田寺 和徳	前姫路市教育委員
委員	村上 早百合	神戸新聞社 姫路本社代表
委員	吉田 裕康	姫路商工会議所 専務理事
委員	村上 慎吾	連合兵庫西部地域協議会 副議長

審 議 経 過

日 程	項 目
令和3年7月30日	第1回審議会 ○ 諮問 〔議事〕 ・ 国の動向について ・ 兵庫県の取組について ・ 生徒数の現状と見込みについて
令和3年8月17日	第2回審議会 〔議事〕 ・ 姫路市立高等学校について ・ アンケートの実施について
令和3年11月8日	第3回審議会 〔議事〕 ・ アンケートの調査結果について ・ 市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について
令和4年1月13日	第4回審議会 〔議事〕 ・ 答申案について
令和4年2月22日	第5回審議会 〔議事〕 ・ 答申案について
令和4年2月28日	○ 答申